HP ProCurve Campus LANs Rev. 9.41



目次

モジュール 1: 概要	
はじめに	1-2
コースの目的	1-4
HP ProCurve について	1-5
HP ProCurve について: Adaptive Networks	1-6
HP ProCurve について: パーソナライズ	1-7
HPProCurve について: ProCurve の AdaptiveEDGEArchitecture [™]	1-8
HP ProCurve および Cisco の用語: 一般的な用語	1-9
HP 認定プロフェッショナルプログラム: トレーニングと認定	1-11
詳細情報へのリンク	1-12
参考資料	1-13

モジュール 2: マーケットセグメント

モジュールの目的	2-2
HP ProCurve の成長	2-3
HP ProCurve の成長: マーケットリーダー	2-5
HP ProCurve と標準: 標準への適合を推進	2-6
HP ProCurve ネットワーキングの優位性	2-7
HP ProCurve ネットワーキングの優位性: 認められたブランド	2-8

モジュール 3: 製品ラインの概要

モジュールの目的	3-2
統合	3-3
統合: 統合の最初のステップ	3-4
統合:統合の2番目のステップ	3-5
統合:統合の3番目のステップ	3-6
スイッチ: ProVision ASIC ベースのスイッチ	3-7
スイッチ: ProCurve Switch 8212zl ハードウェアの概要	3-8
スイッチ:機能グループの違い	3-9
HP ProCurve モビリティ製品: 無線 LAN の発展	3-10
HP ProCurve モビリティ製品: 分散インテリジェンス - 最適なアーキテクチャ ー	3-15
HP ProCurve モビリティ製品: マルチサービスモビリティーソリューション	3-16
HP ProCurve モビリティ製品: セントラルコントローラーの ラインナップ	3-17
HP ProCurve 管理製品: Windows ベースのネットワーク管理ソリューション	3-18

i

HP ProCurve 管理製品: Identity Driven Manager の概要	3-19
HP ProCurve 管理製品: Network Immunity Manager の概要	3-20
HP ProCurve 管理製品: Mobility Manager の概要	3-21
HP ProCurve 管理製品:包括的な GUI ベースの無線 LAN 管理ツール	3-22
HP ProCurve 管理製品: ProCurve Guest Management ソフトウェア	3-23
HP ProCurve 管理製品	3-24
HP ProCurve 管理製品: HP ProCurve RP Planner	3-25
製品ラインのまとめ: HP ProCurve 製品	3-26
確認テスト	3-27

モジュール 4: Cisco 製品との比較

モジュールの目的	4-2
ポート識別子: 違いの比較	4-3
ポート識別子: スタッカブルスイッチ	4-4
ポート識別子: モジュール式スイッチ	4-5
一般的なサービス: サービスの概要	4-6
ProCurve スイッチがサポートする機能: CDP および IEEE 802.1AB LLDP	4-7
VLAN の設定: スイッチ間の接続	4-8
VLAN の設定: スイッチとコンピューターの間に IP 電話機を接続	4-9
設定シナリオ: スタティックな(リンク)集約	4-10
設定シナリオ: LACP を使用したダイナミックな(リンク)集約	4-11
設定シナリオ: OSPF 設定の比較	4-12
確認テスト	4-13

モジュール 5: 使用方法と設定方法

モジュールの目的	5-1-2
モジュール 5-1: スイッチ管理	
ダイレクトシリアル接続	5-1-4
スイッチ管理のインターフェイス	5-1-5
管理アクセスのセキュリティ確保	5-1-6
マネージャーレベルとオペレーターレベルの権限の設定	5-1-7
設定したパスワードの削除	5-1-8
セキュリティ認証情報: コンフィギュレーションファイルに含まれる	5-1-9
セキュリティ認証情報: コンフィギュレーションファイルの例	5-1-10
前面パネルのセキュリティ	5-1-11
前面パネルのボタンのセキュリティ設定	5-1-12

マネージャーレベルとオペレーターレベルの間の移動	5-1-13
CLIのナビゲーション	5-1-14
CLIのヒントとショートカット	5-1-15
初期設定でのCLIの使用	5-1-16
Web インターフェイスの使用	5-1-17
リモート管理の有効化の復習	5-1-18
CDP および IEEE 802.1AB LLDP: ProCurve スイッチでの対応状況	5-1-20
役に立つ show コマンド	5-1-21
システムログのイベントの表示	5-1-22
コンフィギュレーションファイルの管理に役立つコマンド	5-1-23
確認テスト	5-1-24

モジュール 5-2: ポートと VLAN

ポートのタイプ	5-2-2
ポートに関する用語: 違いの比較	5-2-3
ポート識別子: スタッカブルスイッチ	5-2-4
ポート識別子: モジュール式スイッチ	5-2-5
ポートの速度とモードの変更	5-2-6
ポートステータスの表示	5-2-7
VLAN 設定の比較: スイッチ間	5-2-8
VLAN 設定の比較: スイッチ間のノード	5-2-9
スイッチとコンピューター間に IP 電話機を接続	5-2-10
スイッチ間の VLAN 境界の拡張	5-2-11
VLAN 内でのフォワーディング	5-2-12
Cisco スイッチでの VLAN の定義	5-2-13
VLAN 間のフォワーディング	5-2-14
VLAN 間でフォワーディングするためのルートエントリー	5-2-15
役に立つ show コマンド	5-2-16
確認テスト	5-2-17

モジュール 5-3: リンクアグリゲーション

リンクアグリゲーションの方法	5-3-2
ProCurve スイッチでポートトランキングが VLAN ステータスに影響を与える 方法	5-3-4
フレンドリポート名を使用したトランクステータスの表示	5-3-5
設定シナリオ: LACP を使用したダイナミックな(リンク)集約	5-3-6

iii

役に立つ show コマンド	5-3-7
確認テスト	5-3-8
エジュールティフパーングツリーの宇宙	
モシュール 5-4: 人ハーンクラリーの夫装	5 4 2
	5.4.2
CISCO PVS1+ \geq Rapid PVS1+	5-4-5
PVSI+と MSIPの比較	5-4-4
$\Delta = \Delta =$	5-4-5
Cisco-ProCurve $O > T y \neq 1$: Rapid PVS1+	5-4-9
Cisco-ProCurve $O > T > T$ i: VLAN \geq PVST	5-4-10
Cisco 機器での Rapid PVST+の設定	5-4-11
Cisco Rapid PVST+: トランクボートで送信される BPDU	5-4-12
Cisco-ProCurve のシナリオ 1: ProCurve スイッチの設定	5-4-17
Cisco-ProCurve のシナリオ 1: Cisco スイッチの設定	5-4-18
Cisco-ProCurve のシナリオ 2: ロードバランシングを行う 場合の Rapid PVST+	5-4-20
MSTP の実装	5-4-21
MST リージョン	5-4-22
MSTインスタンス	5-4-23
MST リージョンの例	5-4-24
確認テスト	5-4-25
MSTP BPDU	5-4-27
CST の機能	5-4-28
プライオリティの設定: IST と MST インスタンス	5-4-29
MSTPが VLAN 設定を認識しているかどうか?	5-4-30
冗長パスのあるネットワークでの VLAN の設定	5-4-31
新しい VLAN の定義	5-4-33
MST インスタンスへの VLAN の割り当て	5-4-34
スパニングツリーと LLDP	5-4-35
MSTP の一般的な設定手順	5-4-36
Cisco 機器での MSTP の設定	5-4-37
ProCurve 機器での MSTP の設定	5-4-40
ProCurve でのプライオリティの設定: ProCurve 機器がコアにある場合の例	5-4-43
ProCurve 機器でのポートの設定	5-4-44
ProCurve 機器でのポートの設定: バージョン K.12.04 より前の場合	5-4-46
ProCurve がサポートするスパニングツリーのバージョン	5-4-47

MSTP の有効化	5-4-48
ProCurve 機器での MSTP 設定の確認	5-4-49
MSTP のトラブルシューティング	5-4-51
役に立つ show コマンド	5-4-52
Spanning Tree Hardening	5-4-53
Spanning Tree Hardening 機能	5-4-54
確認テスト	5-4-60

モジュール 5-5: PoE と VoIP 電話機

PoEデバイス	5-5-2
管理システム-さまざまな PoE ステータス	5-5-3
システム全体の PoE ステータスの管理	5-5-4
ポートレベルの PoE ステータスの表示	5-5-5
すべてのポートの PoE ステータスの表示	5-5-6
PoE設計上の考慮事項	5-5-7
LLDP の動作	5-5-8
LLDP と LLDP-MED の違い	5-5-9
LLDP-MED のコンポーネントモデル	5-5-10
マルチベンダーのサポート: PC と VoIP 電話機による接続の共有	5-5-11
音声の自動設定	5-5-12
VLAN 設定の比較: スイッチとコンピューター間に IP 電話機を接続	5-5-13
トラフィックの分類	5-5-14
トラフィックの分類: キューへのマッピング	5-5-15
トラフィックのマーキング	5-5-16
QoSプロセスの概要	5-5-17
ProCurveの QoS サポートの概要	5-5-18
WAN リンク経由でのプライオリティの保持	5-5-19
トラフィックの分類基準	5-5-20
DiffServ Code Point マッピングテーブルの表示	5-5-21
運用上の注意点: DSCP マッピングテーブルの管理	5-5-22
QoS 設定の比較	5-5-23
確認テスト	5-5-24

モジュール 5-6: DHCP とインテリジェントミラーリング

DHCP スヌーピングの有効化	5-6-2
DHCPスヌーピングの設定	5-6-3

オプション 82 の設定	5-6-4
設定例	5-6-5
レガシートラフィックのミラーリング	5-6-6
インテリジェントミラーリング	5-6-7
インテリジェントミラーリング: セッションのサポート	5-6-8
トラフィックの送信方向に基づくフィルタリング	5-6-9
ACL を使用したトラフィックのフィルタリング	5-6-10
トラフィックのローカルミラーリング:設定手順の概要	5-6-11
トラフィックのローカルミラーリング:ミラーセッションと出力ポート	5-6-12
トラフィックのローカルミラーリング:トラフィックの送信元とフィルタリン グ	5-6-13
トラフィックのローカルミラーリング: 設定の表示	5-6-15
トラフィックのリモートミラーリング:設定手順の概要	5-6-16
確認テスト	5-6-17

モジュール 5-7: OSPF を使用したルーティング

IP ルーティングの有効化	5-7-2
サブネット間のルーティング: 要件	5-7-3
ループバックインターフェイスの使用	5-7-4
ルーティングテーブルの表示	5-7-5
スタティックルートの設定	5-7-6
OSPF の設定	5-7-7
スイッチのコンフィギュレーションファイル: OSPF エントリー	5-7-8
OSPF ステータスの確認	5-7-9
OSPF エントリーのあるルーティングテーブル	5-7-10
OSPF の設定シナリオ	5-7-11
OSPF設定の比較	5-7-12
詳細情報	5-7-13
確認テスト	5-7-14



この『HP ProCurve Campus LANs』コースは、HP ProCurve 認定試験の受験準備用に開発されました。コースの各モジュー ルに含まれる確認テストは、コースの理解度の評価に役立ちま す。

コースの内容:

ProCurve Networking

はじめに

モジュール1: 概要 モジュール2: マーケットセグメント モジュール3: 製品ラインの概要 モジュール4: Cisco製品との比較 モジュール5: 使用方法と設定方法

このコースでは、同じネットワークにあるCisco製品とHP ProCurve製品の類似点と 相違点を中心に説明します。このコースの学習には約4時間かかります。

このコースの英語版Webトレーニング『HP ProCurve Campus LANs v9.41』に含まれる資料(Interoperability-ILT-Courseware.zip)には、このトレーニングコース『 HP ProCurve Campus LANs v9.41』に対応するStudent GuideおよびLab Guide が含まれています。これはインストラクターが行う形式のトレーニング用のテキストです。受験前にこれらのテキストも学習されることを強くお勧めいたします。

この英語版Webトレーニング『HP ProCurve Campus LANs v9.41』の入手方法については、以下のHP ProCurveサイト(英語)を参照してください。

http://www.procurve.com/training/training/technical/ase/campus-lans-941.htm

モジュール1: 概要





このコースは、ネットワークエンジニアやHP ProCurveのパートナー、カスタマーを対象としています。HP ProCurve製品とCisco製品を相互運用するネットワークでHP ProCurveスイッチング製品やルーティング製品を設置、設定、管理する方法について学習します。

このコースは、Ciscoのルーターやスイッチに関する知識や経験を前提にしています。



HP ProCurve – Network of Choice

HP ProCurveは、有線ネットワークおよび無線ネットワークにおけるクラス最高のソ リューション、製品、サービスを提供します。HP ProCurveのビジョンである Adaptive Networksは、絶えず変化を続けるユーザー、アプリケーション、企業のニ ーズに適応する、オープンで標準に基づいたネットワークインフラを導入できるよう にします。



HP ProCurveについて: Adaptive Networks

Adaptive Networksとは:

- ユーザーに適応する
- アプリケーションに適応する
- 企業のニーズに適応する



高度に安全で可用性が高く、柔軟な統合ネットワークインフラ上で実現

Adaptive Networksを導入することにより、企業は重要度の高いビジネスに集中して、急速に変化するグローバルマーケットで競争力を高め、競争力を保つことができるようになります。

つまり、現在においては、ネットワークインフラは、ビジネスを発展させ、競争に勝つ ための戦略的資産であると言えます。ProCurveのビジョンであるAdaptive Networksは、ユーザー、アプリケーション、企業のニーズに適応します。



HP ProCurveについて: パーソナライズ



- •ネットワークがユーザーのIDとデ バイスを認識
- •アクセス方法が簡単で、便利な機能を持ち、制御可能
- 承認されたアクセスのみを許可するので、アプリケーションを最適化できる
- •接続する場所に関係なく、一貫した方法でネットワークを使用可能

ProCurveのアダプティブネットワークは、それぞれのユーザーが使用するIDやデバ イスを認識するインテリジェントなネットワークです。そのため、ネットワークに接続す る場所や、使用するコンピューターや通信デバイスを意識することなく、ネットワーク を使用できます。



ProCurveが2002年から推進しているAEA - Adaptive EDGE Architecture(AEA) を導入することにより、効果的にネットワークを拡張して、変化を続けるビジネスニー ズに適応するリソースに時間や場所を問わずにアクセスできるようになります。この ような統合アプローチは、セキュリティやモビリティ、コンバージェンスなどのニーズ に対応しています。



HP ProCurveおよびCiscoの用語: 一般的な用語

Service-Oriented Network Architecture (SONA)	Ciscoのサービス指向型ネットワークアーキテクチャー(SONA)は、ProCurveの提供するソリューションに最も密接に関連している
Adaptive Network Strategy	ProCurveが提供するソリューションの土台となる ビジョン
Adaptive Edge Architecture™	ProCurveのAdaptive Network Strategyを構成す るさまざまなコンポーネントを記述する方法
Networked Infrastructure Layer	CiscoがSONAのNetworked Infrastructure Layer における重要なポイントとする場所: - キャンパスネットワーク - ブランチネットワーク - データセンター - エンタープライズエッジ - WAN/MAN - テレワーカー

このコースでは、CiscoおよびHP ProCurveで一般的に使用される用語や表現について説明します。HP ProCurveでは、Ciscoの現在のアーキテクチャーモデルをIINのコンテキスト、つまりCiscoのIntelligent Information Networkの考え方に従って理解しています。Ciscoは、顧客の個々のビジネスニーズに対応する4つの技術上のアーキテクチャーを採用しています。その1つであるサービス指向型ネットワークアーキテクチャー(SONA)は、HP ProCurveの提供するソリューションに最も密接に関連しています。HP ProCurveが提供するソリューションは、Adaptive Network Strategyというビジョンに基づいて開発されており、また、このAdaptive Network Strategyを構成するさまざまなコンポーネントを記述する方法をAdaptive Edge Architectureと呼んでいます。Ciscoでは、SONAにおける重要なポイントをNetworked Infrastructure Layerと呼んでいます。

HP Pro	orve DocurveおよびCiscoの	HP ProCur 用語: 一般的な用語	ve Campus LANs 概要
	HP ProCurve Adaptive Network Strategy	Cisco Hierarchical Network Model	
	コア	バックボーン	
	アグリゲーション またはディストリビューション	ディストリビューション	
	エッジレイヤー またはアクセスレイヤー	アクセスレイヤー	

このトレーニングでは、ネットワークアーキテクチャーに関する古くてなじみのある Ciscoの用語である、階層型ネットワークモデルという用語を使用します。これは古 いモデルですが、このモデルを使用することで、最も基本的な比較が可能になりま す。

ProCurveでは、この中間階層を、ディストリビューションではなく、アグリゲーションと 表現することがあります。ProCurveでは、以前は、Ciscoでアクセスレイヤーと呼ば れるレイヤーをエッジレイヤーと呼んでいました。最近では、ProCurveでもこれをア クセスレイヤーと呼んでいます。



HP ProCurveトレーニングと認定の詳細: http://www.hp.com/go/procurvetraining

HP認定プロフェッショナルプログラムの詳細: http://www.hp.com/certification

HP認定プロフェッショナル プログラムは国際的レベルの認定プログラムです。HPテ クノロジーとソリューションの計画、導入、サポート、サービスに必要な技術的、営業 的能力と専門性を確実に評価するための認定プログラムで、その有効性は世界的 に評価されています。販売や統合に関するHPの認定トレーニングプログラムの詳 細については、上記を参照してください。

 ProCurve Networking
詳細情報へのリンク

HP ProCurve製品およびソリューション: http://www.procurve.com

HP ProCurveトレーニングと認定: http://www.hp.com/go/procurvetraining

HP認定プロフェッショナルプログラム: http://www.hp.com/certification

ソフトウェアバージョンの対応表: http://www.procurve.com/customcare/support/featuresmatrix.htm



以下の資料は、このコースの英語版Webトレーニングに含まれています。 必要に応じて適宜参照してください。

説明	ファイル
このコースと試験の基本的な情報について説 明するデータシート	HP ProCurve Campus LANs v9 41 Datasheet.pdf
『ProCurve Care Competencies』コース – ProCurveのスイッチング/ルーティング製品を 設定、設定、管理するProCurveのパートナー およびカスタマーのネットワークエンジニア向 けのコース	ProCurveCoreCompetencies.zip
コースと演習- このトレーニングコース『 ProCurve Campus LANs』の基となった、『 ProCurve and Cisco Network Interoperability Training Version 8.31』コー ス(インストラクターが行う形式のトレーニング 用テキスト)	Interoperability-ILT-Courseware.zip

この英語版Webトレーニング『HP ProCurve Campus LANs v9.41』の入手方法については、以下のHP ProCurveサイト(英語)を参照してください。

http://www.procurve.com/training/training/technical/ase/campus-lans-941.htm



説明	ファイル
『ProCurve Security』⊐ース	ProCurve Security 731.zip
ProCurve製品の使用および設定に関する 基礎コース	AdaptiveEdgeFundamentals.zip
『Building ProCurve Resilient, Adaptive Networks Version 7.42』コース	BPRAN_v7.42_SG_C.pdf



説明	ダウンロードするファイル
MultiService Mobility製品に関するコース	MSM_V9.11_SG.pdf
ProVision ASICベースのProCurveスイッチ に関する『Technical Overview』	ProVision-Tech-Overviews.zip
このコースで扱うトピックを補足するさまざま な資料やガイド	Papers&Guides.zip









このモジュールでは、HP ProCurveネットワーキングの成長の過程、標準への準拠、および市場における強固な位置付けについて説明します。

マーケットセグメント



HP ProCurve Campus LANs マーケットセグメント

HP ProCurveの成長

- ProCurveは、市場平均よりもはるかに成長スピードが 速い
- ProCurveのビジネス規模は、3年ごとに倍増
 - 前年度に比べて30%の成長。次年度も同様の見込 み
- ProCurveは、2003年以来、管理型ポートの出荷*に関して業界2位

*出典: IDC、Dell'Oro、2008年

はじめに、ProCurveの成長の概要について説明します。2008年の実績では、 ProCurveの成長スピードは市場の平均的な成長よりも速くなっています。 ProCurveのビジネス規模は、それ以前の3年間に倍増しており、継続的に投資を行 って新たなソリューションの開発を進めることが可能になりました。ProCurveは、業 界2位の地位をさらに強化し、成長を続けています。

マーケットセグメント



このグラフは、Dell'Oro Groupによるデータに基づいて作成したものです。2000年から2008年にかけて、ProCurveがネットワーキング市場や他のネットワークベンダーと比較して、ProCurveが大幅に成長した様子を示しています。

マーケットセグメント



1985年に10Base-Tを開発して以来、HPは、過去25年間にわたってネットワーキン グビジネスに取り組んでいます。1990年後半まで、ProCurveはネットワーキング市 場において業界第11位でしたが、それ以降、業界におけるProCurveの地位は大幅 に向上しました。7年前には、Adaptive Edge Architecture、そして2007年には Adaptive Networksというビジョンを打ち出し、また、2008年8月にはColubirsを買 収することにより、ProCurveは業界第2位にまで成長しました。Colubris Intelligent Mobility Solutionsによって、ProCurveは、無線を統合したアクセス、管理、セキュリ ティ製品や、802.11n機能を提供できるようになりました。



ProCurveは、当初から、さまざまな標準策定団体に参加しています。最近の実績の 一部をここに示します。ProCurveは、標準が策定されるのを待つのではなく、その 策定段階から標準策定団体に加わっています。ProCurveは、多くの領域において 標準への準拠や標準の定義を推進しています。ProCurveは、多くの選択肢と柔軟 性を提供しており、オープンスタンダードにおけるリーダーシップによって相互運用 性を保証し、投資を保護しています。



ProCurveは、GartnerのLeadership Quadrantに位置づけられており、その業績と 将来的な発展性が認められています。





HP ProCurve Campus LANs マーケットセグメント

HP ProCurveネットワーキングの優位性: 認められたブランド

「LANインフラの交換を考えている企業では、HPの ProCurve Networking製品を評価リストに加えている はずである」 Gartner

「ProCurveのおかげで総運用コストを30%カットできた」 Hans de Harde, PGGM



ProCurveのブランドカと勢いはアナリストからも顧客からも認められています。その マーケットシェアの拡大は、ProCurveが市場に受け入れられる魅力的な製品である ことの証明です。ProCurveは、お客様によりよい価値を提供し続けるため、ソリュー ションの開発を継続的に行い、パフォーマンスの維持と向上に積極的に取り組んで います。



マーケットセグメント

モジュール3: 製品ラインの概要





このモジュールでは、ProCurveのスイッチング製品と無線製品のいくつかを紹介します。また、スイッチや無線製品が備える一般的なハードウェア/ソフトウェア機能についても説明します。



ここに示すのは、Cisco製品によるネットワークの例です。ProCurveとCiscoの相互 運用性に関する重要なポイントを説明しやすくするため、ここでは意図的にシンプル なネットワークにしています。ProCurveとCiscoの類似点と相違点について、特にそ の相互運用性を中心に説明します。

通常、速度が要求されるコアでレイヤー3ルーティングを行うことはありませんが、こ こでは相互運用性について説明するためにレイヤー3ルーティングを使用していま す。Cisco Catalyst 3500スイッチがアクセスレイヤーに配置されています。これは ProCurveでエッジと呼んでいるレイヤーです。ProCurveでは最近、このレイヤーを アクセスレイヤーとも呼んでいます。

Cisco Catalyst 4000スイッチがディストリビューションレイヤーにあります。これらは いずれもレイヤー2およびレイヤー3スイッチです。コアにあるCisco 6500スイッチは 、レイヤー3のみに対応しています。


この図は、統合または移行を行う際の最初のステップを示しています。アクセスレイ ヤーのスイッチがProCurve Edgeスイッチに置き換えられています。アクセスレイヤ ーのスイッチを置き換えるには、ProCurve Edgeスイッチが、レイヤー2レベルで Cisco Catalystディストリビューションスイッチに接続する必要があります。相互運用 するレイヤー2には、マルチVLANアップリンクとスパニングツリーが設定されていま す。



統合の次の段階では、可用性を高めるために、5400zlシリーズのスイッチ、または 8206zlスイッチを使用します。ディストリビューションレイヤーでは、リングアグリゲー ションを行う場合の相互運用上の要件を考慮し、コアでは、ルーティングプロトコルと してOSPFを使用して相互運用します。



ディストリビューションレイヤーに5400zlシリーズを配置した後、コアに8212zlを導入 します。



これまでに簡単に説明したように、統合や相互運用はさまざまなレベルで行われま す。ProCurveのProVision ASICベースのスイッチは、このようなシナリオで使われ る機会が多い製品です。ASICベースのスイッチは、さまざまな構成が可能です。こ の写真の例は、モジュールが実装された状態になっています。さまざまな製品の実 際の構成については、www.procurve.comを参照してください。



ProCurve Switch 8212zlは、シャーシ型のスイッチで、パフォーマンスや可用性が高く、コアからエッジというアダプティブな統合ネットワークソリューションを実現します。業界初のライフタイム保証付きコアスイッチです。その豊富な機能の例として、 冗長管理モジュールスロット、428mppsのスループット、692Gbpsの帯域幅に対応する、耐障害性の高いスイッチファブリックモジュールスロットなどがあります。 288Gbpsのポートワイヤースピードを備える最大12個の"zl"インターフェイスモジュ ール、および最大48個の10Gigabit Ethernetポートを搭載可能です。電源のタイプ は2種類あり、PoEの要件に従って選択できます。8212zl は、8206zl、5400zl、 3500yl、6200ylと同じソフトウェアイメージを使用しています。

詳細については、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる『Technical Overview』を参照してください。



ここには、Intelligent Edgeスイッチの出荷時に搭載されているデフォルトソフトウェア、およびPremiumアップグレードオプションを示しています。これは、基本的な違いの一例です。詳細については、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる『Technical Overview』を参照してください。



最近のLANでは、無線接続機能が重視されるようになっています。ProCurveでは、さまざまな無線LANソリューションの選択肢を用意しています。このような話題はこのトレーニングコースの目的から少しはずれますが、ここで少し説明しておきます。



無線アーキテクチャーにおける第1世代のアクセスポイントは、インテリジェントまた はファット(fat)アクセスポイントと呼ばれていました。多くの無線LAN製品は、はじめ はこのレベルでした。



第2世代は、IT部門が顧客要件に応じてネットワークに100台以上のAPを配置する 必要を満たします。この時期のソリューションでは、一元管理を行っていましたが、こ のソリューションにはまだ問題がありました。第3世代は、最適化された無線LANア ーキテクチャーと呼ばれます。従来型のネットワークと同じように、すべてを一元管 理しますが、エッジにインテリジェンスを持たせることで、すべてのデータを中央のポ イントに戻して処理する必要がなくなりました。



第3世代のモデルでは、エッジでトラフィックを処理するインテリジェントAPが登場しました。無線LANの発展を振り返ると、第3世代に対応するには、ほぼすべての無線ベンダーがそのネットワークを再デザインする必要がありました。

この第3世代では、有線ネットワークは、スイッチングネットワークとは完全に別のオ ーバーレイとして管理されます。



ProCurveは、統合された無線LANアーキテクチャーを目指しています。IT部門では 認証情報を用いて、有線と無線を統合することができます。このようにすると、 Ethernetポートへの接続と同様に、無線アクセスでも認証を受けることができます。



ここで分散インテリジェンスについて少し説明します。この図は、すべてのフローが 中央のMultiServiceモビリティコントローラーに戻る構成を示しています。モビリティ コントローラーは、無線LANでトラフィックを処理する方法を制御しますが、必ずしも トラフィックの宛先は制御しません。そのため、APを直接設定・管理してネットワーク にアクセスすることも可能です。AP(MultiServiceアクセスポイントまたはインテリジ ェントAP)は、トラフィックの送信先の詳細な制御やネットワークポリシーの適用を行 うことができます。この場合、すべてのフローをコントローラーに直接戻すことなく、ク ライアントトラフィックが必要な宛先に送信されます。

Mathematican HP ProCurveモビリティ マルチサービスモビリテ	HP ProCurve Campus LANs 製品ラインの概要 製品: イーソリューション
エッジデバイス - 無線アクセスポイント 無線接続を提供 ・シングル/デュアル/トライ(tri)無線ユニットモデル ・屋内、屋外に対応するユニット ・無線クライアントブリッジ	A de la compañía de
 コアデバイス - 無線LANのセントラルコントローラー 無線管理と制御に対応 ・スタンドアロン型、およびシャーシ型ブレードモジュール 	
<mark>セキュリティ – 侵入検知/侵入防止</mark> 無線セキュリティIDS/IPS •セキュリティ機器およびRFセンサー	
<u>ソフトウェアとツール</u> Guest Managementソフトウェア •管理用のソフトウェア – PCM / PCM+	

ProCurveのモビリティソリューションはさまざまな要素で構成されます。これらの要素は主に4つの領域に分類できます。1つめは、エッジデバイスのアクセスポイントです。2つめは、コントローラーとその機能です。3つめは、セキュリティ、IDS、IPSの技術です。4つめは、すべての設定を行うソフトウェアと管理ツールです。

HP ProCurve Campus LANs 製品ラインの概要 HP ProCurveモビリティ製品:セントラルコントローラーの						
ラインナ・	シナップ					
	MS	M710	MSN	1760	MSM765zl	
サービスパック	アクセス (基本)	モビリティ	アクセス (基本)	モビリティ	モビリティ	
サービス	 ・無線LANの 管理と制御 ・Guestアクセス 	 ・無線LANの管理と制御 ・Guestアクセス ・ローミング 	 ・無線LANの 管理と制御 ・Guestアクセス 	 ・無線LANの 管理と制御 ・Guestアクセス ・ローミング 	 ・無線LANの管理と制御 ・Guestアクセス ・ローミング 	
スケーラビリティ	802.11 a/b/g: 10 802.11n: 10		802.11 a/b/ 802.11n:	/g: 40 - 200 40 - 200	802.11 a/b/g: 40 – 200 802.11n: 40 - 200	
同時接続ユーザ 一数	無制限		無精	削限	無制限	
同時接続guest アクセスユーザ 一数	100		20	00	2000	

MultiService Mobilityコントローラーには、単体バージョンとモジュール式バージョン があります。MSM 700シリーズは、2つの異なる設定で提供されます。MSM710は、802.11nまたはa/b/g対応の、最大10個のAPをサポートします。8200または5400 シャーシに装着するMSM 765zl、および単体型のMSM 760は、初期状態では40個 のAPライセンスを備えており、40ライセンスずつ、最大200ライセンスまで追加でき ます。さらに、765zlモジュールでは、1つのシャーシに4個のモジュールを格納できる ため、8200zlまたは5400zlプラットフォームで合計800個のAPに対応できます。

HP ProCurve Campus LANs ProCurve Networking 製品ラインの概要 HP ProCurve 管理製品: Windows ベースの ネットワーク管理ソリューション 一元管理機能を備えており、 ネットワークデバイスの設定と モニタリングを一箇所から行うことが 可能 0 16.1 0 16.2 ネットワークを効果的に管理する 1. ツール ProCurve ●デバイスの自動検出とポーリング ● ネットワークとVLANのマッピング ・デバイスの設定と管理を行うツール • ネットワークトラフィックのモニタリング アラートとトラブルシューティング情報 2つのバージョン: ProCurve Manager (PCM) および ProCurve Manager Plus (PCM+)

PCMおよびPCM+は、Windowsベースのネットワークソリューションで、Adaptive EDGEネットワークの管理に必要なツールを提供します。PCMおよびPCM+は、一 元管理機能を備えており、ネットワークデバイスを一箇所からモニタリングおよび設 定することができます。

PCMは、管理可能なすべてのProCurveデバイスに同梱されており、基本的な管理 機能を提供します。たとえば、機器やトポロジの自動検出、マッピングやポーリング 、デバイスの設定や管理、アラート機能などを備えています。PCM+は、さらに高度 なバージョンのアプリケーションで、ライセンスを購入することにより使用できます。 たとえば、設定管理、VLAN管理、トラフィックの詳細なモニタリング、グループとポリ シーの管理、ソフトウェアの自動アップデートなどの機能があります。

PCMおよびPCM+は、CLIやWebインターフェイスなど、スイッチやデバイスの設定 を行うツールの代替とはなりません。PCMやPCM+は、スイッチにリモートでアクセ スして、CLIやWebエージェントを起動して個々のスイッチに変更を加える場合に使 用できます。



Integrity Driven Manager(IDM)はPCM+に適用するオプションのプラグインです。 IDMは、ユーザーID、デバイスID、時刻、場所、クライアントの統合ステータスなど、 指定した基準に基づいて、セキュリティ、アクセス、パフォーマンスに関する設定をダ イナミックに適用します。また、管理者が設定したアクセスプロファイルに基づいて、 ネットワークへの適切なアクセス権を許可します。

IDMは、ProCurveデバイスがその時点でエッジに適用している主要なポリシー定義 を有効にします。新しいネットワークリソースを追加することなく、既存のスイッチプラ ットフォームに搭載することによりネットワークの機能性を高めます。また、RADIUS に準拠しています。

ACLは、ルールを構成する5つの基準のいずれかまたはすべてに基づいて、ユーザ ーが接続するスイッチにダイナミックに書き込まれます。ACLは、プロトコル、宛先IP アドレス、または宛先TCP/UDPポートへのアクセスを許可または拒否する、ポート またはアクセスポイントにおいてユーザーに適用されるフィルターです。IPアドレスま たはTCP/UDPアドレスは、個別に指定することも、値の範囲として指定することもで きます。



ProCurve Network Immunity Managerは、PCM+に適用するオプションのプラグインで、ウイルスによる攻撃などネットワーク上の脅威を自動的に検出して処理します。このセキュリティ管理ツールは、ネットワーク上のデバイスをモニタリングして、ネットワーク内部の攻撃を検出し、管理者が検出と対応方法に関するセキュリティポリシーを設定できるようにします。

このツールは、ProVision ASICを搭載したProCurveスイッチに内蔵されているセキ ュリティ機能とトラフィックモニタリング機能(sFlow、Virus Throttle、リモートミラーリ ング技術など)を利用し、Network Behavior Anomaly Detection(NBAD)を実行し て攻撃を検出します。



ProCurve Mobility ManagerはPCM+に適用するオプションのプラグインです。 Mobility ManagerはPCM+のモニタリング機能を拡張して、ProCurve無線アクセス ポイント(AP)で使用する設定ツールを追加します。Mobility Managerは、管理対象 のProCurve APIこあるすべての無線ユニットのモニタリング、信頼された無線ユニッ トの定義、管理対象APの無線ユニット用の無線LANとSSIDのモニタリングと設定を 行う場合に使用できます。

Serverting HP ProCurve 管理製品 無線LAN管理ツール	HP ProCurve Campus LANs 製品ラインの概要 に包括的なGUIベースの
	HP ProCurve CNMS
•リアルタイムのモニタリ ング、アラート送信、 トラブルシューティング	Deshbard Sarvice Fulls Centiguration Petermance Security Hip • Costandia • Costandia • Costandia Constandia Constandia Constandia • Costandia • Costandia • Costandia Constandia Constandia Constandia • Costandia • Costandia • Costandia Constandia Constandia Constandia • Costandia • Costandia • Costandia Costandia Costandia Costandia • Extension • Costandia • Costandia Costandia Costandia Costandia • Extension • Costandia • Costandia • Costandia Costandia • Extension • Costandia • Costandia • Costandia • Exte
•レポート作成およびキ ャパシティ計画用のトレ ンド分析	Local Mesh Link Configuration Settings: C Budde C Dynamic Local Mesh Mode: C Static Local Mesh Rudo: Rudo: Rudo: C Static Local Mesh C Static Local Mesh C Dynamic Local Mesh Dynamic Lo
	Dapped 200 model: Packar (Southpool Company, LP)

HP ProCurve CNMSは、ProCurve MSM製品のすべての設定、パフォーマンスモニタリング、障害管理、トラブルシューティングの機能を一元的に実行できるようにします。

CNMSは、簡単に導入して運用コストを削減できるように設計されています。組み込 み型のデータベースを備えており、小規模な無線LANから何万ものクライアントデバ イスがある大規模ネットワークにまで簡単に対応できます。

CNMSは、標準のインターネットプロトコルを使用してデバイスと通信するので、ローカルキャンパスネットワークから、何百もの場所にまたがる地理的に分散した大規模ネットワークまで管理可能です。

HP ProCurve Campus LANs 製品ラインの概要

ProCurve Networking

HP ProCurve管理製品: ProCurve Guest Management ソフトウェア

メリット:

- 許可を受けた従業員がguestユ ーザーアカウントを作成できるよう にする
- 技術者以外のスタッフが操作できる設計
- 有効期限が切れると、一時的な 認証情報が自己消滅
- 印刷可能なバウチャーを作成す る場合に使用可能



HP ProCurve Guest Managementソフトウェアは、受付や管理担当のスタッフが使用することを考慮した直感的なユーザーインターフェイスを備えており、シンプルなウィザードを使用してビジターアカウントを安全に作成したり、ゲストのアクセスバウチャーを作成できるようにします。

アカウントを作成するには、担当者のワークステーションにProCurve Guest Managementをインストールしてオペレーターアカウントを付与する必要があります。



HP ProCurve RF Managerは、管理対象ネットワークの侵入検知/防止(IDS/IPS) を実行します。正当なユーザーの通信パフォーマンスを妨げたり低下させることなく、すべての未許可のトラフィックを直ちに自動的にブロックします。RF Managerは、他の問題のスキャンを継続しながら、複数の脅威を同時に防止します。これには、 不正AP、設定の誤ったAP、未許可のクライアントによる接続、クライアントの接続間 違い、アドホック接続、ハニーポット/Evil Twin攻撃、MACスプーフィングなど、さまざ まなタイプの脅威が含まれます。



ProCurve RF Plannerは、無線LANの設計を簡素化して設計にかかる時間を削減 します。物理的な特徴、建材、無線LAN機器の特性などの変数を計算に含めること により、ネットワーク設計者が正確に無線LANカバレッジを把握できるようにします。 RF Plannerは、セキュリティリスクを評価し、機器のリストを生成するので、導入の 際に役立ちます。



ProCurve Networking 製品ラインのまとめ: HP ProCurve製品

HP ProCurve製品の詳細については、procurve.comを参照するか、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる参考資料を参照してください。

ProCurveは、高い信頼性、実証済みのパフォーマンス、包括的な機能を備える製品で、複雑さを軽減し、IT投資効果を最大化します。

ProCurveスイッチは、受賞暦のあるProVisionテクノロジーによりコアからエッジへの統合ソリューションを可能にし、ネットワークの運用、管理、サポートを効率化します。詳細については、procurve.comまたはこのコースの英語版Webトレーニングに含まれる参考資料を参照してください。





Matworking 確認テスト1

3500ylシリーズが使用される場合が多いのは、中規模ビジネス のどのレイヤーですか。 A. コア B. ディストリビューション

C. トランク

D. アクセス

HP ProCurve Campus LANs 製品ラインの概要



正解: D

















このモジュールでは、HP ProCurveとCiscoの用語と使用方法に関する一般的な違いについて説明します。このモジュールは、何度も復習して、両者の違いに関する 最も一般的なポイントを確認してください。

HP ProCurve Campus LANs Cisco製品との比較

ポート識別子:違いの比較					
スイッチポートの役割	ProCurveでの呼び方	Ciscoでの呼び方			
複数のVLANのトラフィックを伝送 するスイッチ間のリンク	複数のVLANに対応するタグ付ポ ート	トランクポート			
リンクの統合に使用	トランクポート	ポートチャネルインターフェイス			
複数のVLANに対応する サーバー用に使用	複数のVLANに対応するタグ付ポ ート	トランクポート			
エンドユーザー用に使用 (PC、プリンターなど)	1つのVLAN用のタグ無ポート	アクセスポート、VLAN			
IP電話機用に使用	音声VLANを伝送するタグ付また はタグ無ポート	補助(音声) VLAN			
エンドユーザーとIP電話機用に使 用	エンドユーザー用の1つのVLAN に対応するタグ無ポート IP電話機用のタグ付 <i>音声</i> VLAN	補助(音声) VLANに対応する アクセスポート Multi-VLAN Access Port(MVAP)			

ProCurve Networking

ProCurveとCiscoでは、ポートやVLANの設定機能に関して異なる用語を使用しています。たとえば、Ciscoデバイスのエンドユーザーポートはアクセスポートと呼ばれていますが、ProCurveデバイスでは同様のポートを「タグ無」ポートと呼んでいます。つまりこれは、エンドノードが送信する、802.1Qヘッダーのない標準のEthernetフレームのパケットのことを指します。この表には、ProCurveとCiscoで使用する用語のうち重要なものをまとめています。

ProCurve Networking	HP ProCurve Campus LANs Cisco製品との比較
ポート識別子: スタッカブルス	マイッチ
Cisco	
<pre>Switch(config)# interface GigabitEthernet0/1</pre>	Catalyst 4900
ポート識別子では、相対的なポート番号のほかに、 インターフェイスタイプのラベルとスロット番号プレ フィックス(0または1)を指定。 例: FastEthernet0/1、GigabitEthernet1/1、2	ポート1(上)および2(下)
ProCurve Switch(config)# interface 1	デュアルパーソナリティ 00yl-24G-PWR
ポート識別子は、相対ポート番号のみを使 用して指定。 例:1 2など	ポート1~48 ポート49~50 らよび2(下) (10/100/1000また はmini-GBIC)

ここでは、現行のほとんどのCiscoスイッチとProCurveスイッチでのポートの指定方法の概要を示します。ProCurveのスタッカブルスイッチでは、ポート識別子は単に、 1、2、3などの相対ポート番号を使用して表します。CiscoとProCurveそれぞれの CLIでの指定方法の違いを確認してください。



Ciscoのモジュール式スイッチでは、ポート識別子はスタッカブルスイッチの場合と 同じ4つの要素から構成されます。唯一異なるのは、各モジュールに、対応するスロ ット番号がある点です。ProCurveのモジュール式スイッチでは、ポート識別子は、モ ジュールまたはスロットを示す、a、b、cのようなアルファベット文字のラベルで構成さ れます。CLIを使用する場合は、このアルファベットのラベルに、そのモジュールでの 相対ポート番号を付けて、a1、a2、a3のように指定します。


ProCurveのデバイスとCiscoのデバイスでは、起動時にサービスを有効化する方法 が異なります。TelnetやHTMLなどのサービスは、ProCurveデバイスではデフォル トで有効になっており、デバイスまたはVLANにIPアドレスを設定すれば動作状態に なります。ProCurveスイッチでは、デフォルトでポートが「有効(enabled)」になって います。また、インターフェイスで"no shut"を実行する必要がありません。ProCurve のEthernetスイッチでは、デフォルトでインターフェイスが「有効(enabled)」になって います。



最も広くサポートされているネットワーク検出プロトコルに、Link Layer Discovery Protocol(LLDP)とCisco Discovery Protocol(CDP)があります。Ciscoが開発した CDPは、独自プロトコルで、多くのネットワーク機器ベンダーがこのプロトコルを実装 しています。ProCurveデバイスはCDPパケットを発信しませんが、Ciscoデバイスな どProCurve以外のデバイスが送信したCDPパケットを読み取ります。

ProCurve	Cisco	
vlan 1 untagged al vlan 11 tagged al vlan 12 tagged al vlan 13 tagged al	interface GigabitEthernet 1/20 switchport アクセススイッチでのデフォルト switchport trunk encapsulation dotlq switchport trunk native vlan 1 デフォルト switchport trunk allowed vlan 11-13 switchport mode trunk switchport nonegotiate Cisco DTPを無効化	
ProCurve	a1 g1/20 Cisco	

ProCurveデバイスでリンクが複数のVLANを伝送するように設定するには、ポート をその特定のVLANのコンテキスト内で「タグ付」に設定します。

この例では、ポートa1は、VLAN 11、12、13でタグ付けされています。VLAN 1では、ポートをタグ無に指定する必要はありません。これは、すべてのスイッチポートの 初期設定でポートがタグ無に設定されているためです。この例では、ProCurveスイ ッチのポートa1は、タグ付ユーザーVLANのトラフィックと同じ物理リンクでタグ無 VLAN 1トラフィックを許可します。Ciscoの設定との比較を図に示しています。



この例では、コンピューターとIP電話機がスイッチポートを共有しています。IP電話 機はスイッチポートに接続され、コンピューターはIP電話機に接続されています。 IP電話機は802.1Qをサポートしている場合が多いので、ProCurveスイッチでは、 通常、コマンドvlan 11 untagged a1を使用して、ポートをVLAN 11用のタグ無ポー トに、また、コマンドvlan 12 tagged a1を使用してVLAN 12用のタグ付に設定します。

VLAN 12については、voiceコマンドを使用して音声VLANも設定します。このコマンドを実行すると、電話機が音声フレームのプライオリティをまだマーキングしていない場合に、VLAN 12のトラフィックのプライオリティを自動的に高くします。



この図は、ProCurveスイッチとCiscoスイッチの間にスタティックトランクを設定する際に使用できるCLIコマンドを示しています。ProCurveとCiscoの用語の違いを思い出してください。Ciscoの環境では、"trunk"とは、ISLまたは802.1Qタグ付の複数のVLANのフレームを伝送するスイッチ間リンクを意味します。ProCurveでの"trunk"リンクは、HPのポートトランクプロトコルまたはLACPのいずれかでリンクアグリゲーションを行うことを意味します。



ここには、ProCurveスイッチとCiscoスイッチ間のトランクにLACPを設定する方法を 示しています。ProCurve側では、trunkコマンドで "trunk"ではなく"lacp"を指定して います。このパラメーターは、トランクの構成にLACPプロトコルを使用することを指 定するものです。トランクの他方の側がLACPに対応している場合は、トランクが自 動的に構成されます。Cisco側では、"mode" パラメーターを使用して、トランクの各 物理インターフェイスをパッシブモードまたはアクティブモードに指定します。アクティ ブモードの場合は、LACP BPDUがアクティブに送信されますが、パッシブモードで は、最初の受信への応答としてのみLACP BPDUが送信されます。

HP ProCurve Cisco製品との 設定シナリオ: OSPF設定の比較		
ProCurve	Cisco	
router ospf	router ospf 1	
area backbone	passive-interface vlan21	
interface loopback 1	network 10.1.1.2 0.0.0.0 area 0	
ip address 10.1.100.1	network 10.1.21.2 0.0.0.0 area 0	
ip ospf 10.1.100.1 area backbone	network 10.1.100.2 0.0.0.0 area 0	
vlan 1	interface loopback1	
ip address 10.1.1.1 255.255.255.0	ip address 10.1.100.2 255.255.255.255	
ip ospf 10.1.1.1 area backbone	ip ospf cost 10	
ip ospf cost 10	interface vlan1	
vlan 11	ip address 10.1.1.2 255.255.255.0	
ip address 10.1.11.1 255.255.255.0	ip ospf cost 10	
ip ospf 10.1.11.1 passive	interface vlan21	
ip ospf 10.1.11.1 area backbone	ip address 10.2.21.2 255.255.255.0	
ip ospf cost 10	ip ospf cost 10	

ProCurveでは、グローバルコンフィギュレーションレベルで実行する"router"コマンドでインスタンス番号を指定しません。ProCurveのルーターでは、ospfと指定します。

Ciscoのルーターでは、ospf 1と指定します。

ProCurveデバイスの場合、OSPFに参加しているネットワークは、"VLAN" コンテキ スト内に設定されます。

ー方Ciscoでは、ルーターコンフィギュレーションレベルで"network" コマンドを使用 します。

ProCurveの"vlan 11 IP address" と、Ciscoの"router ospf"、"network IP address" との違いに注目してください。



Matworking 確認テスト1

右側にある項目を、中央の列の「ProCurveでの呼び方」に対応させてください。

スイッチポートの役割	ProCurve での呼び方	Ciscoでの呼び方	対応させる項目
複数のVLANのトラフィック を伝送するスイッチ間のリン ク		トランクポート	音声VLANを伝送するタグ付 またはタグ無ポート
リンクの統合に使用		ポートチャネルインターフ ェイス	1つのVLAN用のタグ無ポート
複数のVLANに対応するサ ーバー用に使用		トランクポート	複数のVLANに対応するタグ 付ポート
エンドユーザー用に使用(PC、プリンターなど)		アクセスポート、VLAN	複数のVLANIに対応するタグ 付ポート
IP電話機用に使用		補助(音声) VLAN	トランクポート
エンドユーザーとIP電話機 用に使用		補助(音声) VLAN対応 アクセスポート(voice) Multi-VLAN Access Port (MVAP)	エンドユーザー用のタグ付IP 音声VLANに対応するタグ無 ポート

確認テスト1の解答 スイッチポートの役割 ProCurveでの呼び方 Ciscoでの呼び方 複数のVLANのトラフィックを 複数のVLANに対応するタグ付 トランクポート 伝送するスイッチ間のリンク ポート ポートチャネルインターフェイ リンクの統合に使用 トランクポート ス 複数のVLANに対応するサー 複数のVLANに対応するタグ付 トランクポート バー用に使用 ポート 1つのVLAN用のタグ無ポート エンドユーザー用に使用(PC アクセスポート、VLAN 、プリンターなど) 音声VLANを伝送するタグ付また IP電話機用に使用 補助(音声) VLAN はタグ無ポート 補助(音声) VLAN対応アクセ エンドユーザーとIP電話機用 エンドユーザー用のタグ付IP音 スポート(voice) に使用 声VLANに対応するタグ無ポート Multi-VLAN Access Port(MVAP)

ProCurve Networking

Matworking 確認テスト2

ProCurveデバイスはCDPをどのように使用しますか。

A. 送信

B. 読み取り

C. 読み取りおよび送信

D. フォワード



正解: B



ProCurveスイッチにトランクをダイナミックに構成できるようにす るコマンドはどれですか。

- A. trunk <port range> <trunk name> lacp
- B. trunk <trunk name> <port range> trunk
- C. trunk <port range> <trunk name> PagP
- D. lag <trunk name> <port range> trunk



正解: A



ProCurveスイッチでOSPFを設定するとき、OSPFに含める 「ネットワーク」または「VLAN」はどこで設定しますか。

- A. OSPFルーティング用のグローバルコンテキストで "network command"を指定
- B. VLANコンテキストで "ip ospf address area" を指定
- C. router ospf process-idコンテキストで "ip ospf address area"を指定

Marker Resource Retworking 確認テスト3の解答

正解: B



モジュール5: 使用方法と設定方法





このモジュールでは、HP ProCurve Campus LANの使用方法と設定方法について 説明します。これは、このコースで最も長いモジュールです。このモジュールを修了 すると、ProCurve Campus LANの使用方法と設定方法についてさらに深く理解で きるようになります。



はじめに、「スイッチ管理」について説明します。ここでは、ProCurveスイッチの初期 設定手順、およびスイッチの設定とソフトウェアイメージファイルを管理する方法につ いて説明します。スイッチ管理の多くは、Ciscoデバイスの場合と類似しています。



CLIは文字ベースのインターフェイスです。スイッチの機能が使用するパラメーター を定義し、これらの機能のステータスを表示できます。CLIは、スイッチにIPアドレス を割り当てた後にTelnet経由で(または追加の設定手順を実行した後にSSH経由 で)使用できますが、初期設定では多くの場合、スイッチのコンソールポート経由で 直接シリアル接続します。多くのProCurveスイッチでは、スイッチに同梱されている ヌルモデムケーブルを使用して、スイッチの前面にあるコンソールポート(DB-9オス)にPCを接続します。

新しいProCurveスイッチの多くでは、RJ-45「ロール型ケーブル」を使用します。



CLIは最も広範な機能を持つ管理ツールです。すべてのスイッチ機能の設定とモニ タリングが可能です。[Switch Setup] メニュー(設定コマンド)、[Switch Menu] (メニ ューコマンド)、およびWebインターフェイスは、CLIで使用できる機能の一部に対応 しています。ProCurve Managerを使用することもできますが、これについてはこの トレーニングでは扱いません。



HP ProCurveスイッチの前面には、[Reset] ボタンと [Clear] ボタンがあります。ネットワークセキュリティソリューションで最初に行う重要なタスクは、スイッチ自体の物理的セキュリティを確保することです。前面パネルの [Reset] ボタンと [Clear] ボタンの機能を変更して、誰かが許可なくスイッチに物理的にアクセスした場合でも、ボタンを使用できないようにすることができます。



はじめてスイッチに接続すると、CLIプロンプトに、デフォルトのスイッチ名に続いて 記号(#や>)が表示されます。デフォルト名は、スイッチのモデルに基づいて決まり ます。#は読み取り/書き込みモード、つまり「マネージャー」レベルであることを示し ます。この時点では、パスワードを入力しなくてもスイッチを設定できます。

じ ProCurve Networking 設定したパスワードの削除	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理
マネージャーパスワードが不明の場合 [Clear] ボタンを1秒間押すと、マネージャーと [cd オペレーターのユーザー名/パスワードが削除される ボタ この手順では、スイッチに物理的に アクセスできる必要がある マネージャーパスワードが既知の場合 グローバルコンフィギュレーションレベルにアクセスして、 no passwordコマンドを実行 no password <manager all="" operator="" =""></manager>	Procure which 54002 Wangemen Noble Brear] transformer Noble Reset Clear Districts Might
5406zl(config) # no password manager Password protection for manager will be deleted	l, continue [y/n]? y

設定したパスワードを削除する方法は2通りあります。マネージャー権限レベルの現 在のパスワードが不明の場合は、上記の [Clear] ボタンを押すとすべてのパスワー ド保護を削除できます。

また、CLIで"no password"コマンドを実行することによってもパスワードをリセットできます。

ProCurve Networking	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理		
セキュリティ認証情報: コンフィ	ィギュレーションファ		
イルに含まれる			
include-credentials コマンドを実行すると、フラッシュメモリだけでなく、running configurationにもさまざまなセキュリティ設定を追加したり、設定を表示することが可能			
 スイッチにアクセスするためのローカルマネージャー/オペレーターのユーザー名とパスワード スイッチにアクセスするための2024/2ポートアクセスコーザータトパスロード 			
 スイッナにアクセスするための802.1Xホートアクセスユーサー名とハスリート スイッチにアクセスするためのSSHクライアント公開キー 			
• RADIUSおよびTACACS+共有シークレット	コンフィギュレーションファイルのバックアップを保存したり。 スイッチとの間で転送を行		
5406zl(config)# include-credentials	う場合には注意が必要		
You have invoked the command 'include-credentials' for the first time. This action will make irreversible changes to the password and ssh public-key storage.			
It will affect *all* stored configurations, which might need to be updated. Those credentials will no longer be readable by older software revisions. It also may break some of your existing user scripts. Continue?[y/n] y			
This will insert possibly sensitive information in switch configuration files, and as a part of some CLI commands output. It is strongly recommended that you use sftp rather than tftp for transfer of the configuration over the network, and that you use the web configuration interface only with SSL enabled. Proceed?[y/n] y			

デフォルトでは、スイッチに設定するさまざまなセキュリティ設定は、内部フラッシュ に保存され、スイッチのコンフィギュレーションファイルでは確認できません。 include-credentialsコマンドを実行すると、スイッチのコンフィギュレーションファイル 中のさまざまなセキュリティ設定を保存することができます。

これについての詳細を確認するには、このコースの英語版Webトレーニングに含ま れる「student guide」(Interoperability-ILT-Courseware.zip)を参照してください。こ れは、講師が行う形式のトレーニング用テキストです。



ここには、include-credentialsコマンドが無効(デフォルト)になっている場合、有効になっている場合、それぞれのコンフィギュレーションファイルの例を示します。

2番目の例は、include-credentialsが有効になっており、共有シークレット、マネージ ャーレベルとオペレーターレベルに設定したユーザー名およびパスワードのハッシ ュ値、SSHクライアントの公開キーの値、オペレーターまたはマネージャーに割り当 てたアクセスレベルが示されています。スイッチには、SNMPv3エンジン識別子が割 り当てられており、SNMPv3ユーザーの認証とプライバシープロトコルの設定、およ びそれぞれのパスワードのハッシュ値が表示されています。

ProCurveでは、"do"を実行しなくても、コンフィギュレーションコンテキスト内で "show"コマンドを実行できます。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理

Mar ProCurve Networking 前面パネルのセキュリティ

スイッチのデフォルトの動作

- パスワードのクリア: [Clear] ボタンを押すと、すべてのローカルパスワードがリセットされる
- <u>工場出荷時の設定へのリセット</u>: [Clear] および [Reset] ボタンを同時に押すと、 スイッチの工場出荷時のデフォルト設定にリセットされる
- 物理的セキュリティを導入しないとセキュリティ上の脅威となる

前面パネルのセキュリティ問題

- スイッチを安全な環境に設置しないと、誰でもパスワードをリセットしたり、スイッチへの 管理アクセスを実行できてしまう
- スイッチはデフォルト設定にリセットできるため、攻撃者は実装されているセキュリティ

機能を回避可能	5406zl # show front Clear Password Reset-on-clear Factory Reset Password Recovery	-panel-security - Enabled - Disabled - Enabled - Enabled	】 ● ● - 「 デフォルト設な
---------	--	--	---------------------------------

HP ProCurveスイッチは、前面パネルの [Clear] ボタンや [Reset] ボタンを無効に することにより、許可なくパスワードが削除されることを防止する機能を備えていま す。前面パネルのこれら2つのボタンの機能の一部は、個別に有効/無効にすること が可能です。ボタンを使用して、パスワードのクリア([Clear] ボタンを使用)、または スイッチの工場出荷時の設定への復元([Reset] ボタンと [Clear] ボタンを同時に使 用)を行うことが可能です。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理

ProCurve Networking

前面パネルのボタンのセキュリティ設定 セキュリティ強化のため、[Clear] ボタンおよび [Reset] ボタンの 機能は個別に有効/無効にできるようになっている - [Clear] ボタンを使用してパスワードをクリアできるようにする - [Clear] ボタンを使ってパスワードをクリアできるようにし、その後システムを 強制的にリブートさせる - [Clear] ボタンと [Reset] ボタンを同時に使って工場出荷時の設定にリセットで さるようにする - ProCurve Customer Careから入手したワンタイム パスワードを使用してパス ワードを回復できるようにする 選択した前面パネルのセキュリティオプションにかかわらず、 [Reset] ボタンでスイッチがリブートされる 前面パネルのセキュリティ酸定は、コンフィギュレーションファイルではなく、スイッチのフラッシュメ モリに保存される。startup configurationを削除しても、前面パネルのセキュリティ酸定はず フルト状態に復元されない。

ほとんどのProCurveスイッチでは、前面パネルのボタンを無効にするCLIコマンドを 実行できます。このコマンドを使用して、パスワードのクリア機能と工場出荷時の設 定へのリセット機能を個別に無効にすることができます。両方の機能を無効にする ことも、一方のみを無効にすることも可能です。工場出荷時の設定へのリセットやパ スワードのクリア機能を無効にした後にスイッチの管理パスワードを紛失した場合 は、パスワードの回復情報についてHP Customer Carelに問い合わせる必要があり ます。

これについての詳細を確認するには、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる「student guide」(Interoperability-ILT-Courseware.zip)を参照してください。これは、講師が行う形式のトレーニング用テキストです。



ProCurveスイッチには、2つの権限レベル(オペレーターおよびマネージャー)があ ります。また、2つの主要な設定コンテキスト(グローバルコンフィギュレーションおよ びコンテキスト固有コンフィギュレーション)があります。上記の図は、オペレーターレ ベルとマネージャーレベルの関係を示しています。

オペレーターレベルで使用可能なコマンドは、基本的には、マネージャーレベルで使 用可能なコマンドのサブセットです。

適切なパスワードを持つオペレーターユーザーは、enable コマンドを使用して、マネ ージャーレベルに進むことができます。



CLIでは、ここに示すように、さまざまなレベルで設定やモニタリングを行うことができます。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理



CLIのヒントとショートカット

- [?] キーまたは [Tab] キーは、CLIコマンドのコンテキストリストを表示する
- 文字列の入力後に [?] キーまたは [Tab] キーを押すと、指定した文字列で始まるコマンドの一覧が表示される
- コマンドは一意に区別できる限り、最小の文字数に短縮できる
- 最近入力したCLIコマンドは、履歴バッファーから呼び出し、 編集、および実行できる
- 履歴バッファーのコマンドは、実行間に設定可能な間隔で設 定可能な回数だけ繰り返すことができる

Ciscoスイッチと同様に、さまざまなショートカットがあり、コマンドを入力したり、CLI をナビゲートする場合に役立ちます。

CLIには、コンテキスト依存ヘルプ、短縮コマンド、タブ補完、コマンド履歴バッファーの機能が組み込まれており、コマンド構文の確認や、コマンドの入力に必要なキー ストロークを減らすことができます。



ProCurveのCLIは、CiscoデバイスのCLIと類似しています。この画面には、いくつかのProCurveコマンドの実行例を示しています。

"show running-config" — running-configの現在の内容が表示されます。

"config" -コンフィギュレーションコンテキストに移動しています。コンフィギュレーシ ョンコンテキストに入ると、さらに入力を続けるためのプロンプトが表示されます。

"hostname Group 01" ーホスト名をスイッチに割り当てています。

"vlan1"-VLANコンテキストレベルに入ります。

"ip address 10.1.1.1/24" - IPアドレスとマスクを定義します。

"exit"-VLANコンテキストレベルを終了します。

"ip default-gateway 10.1.1.254" ーグローバルコンフィギュレーションレベルでデフ オルトゲートウェイを定義します。

"write memory"ーフラッシュに変更を保存します。

"show runing-config" - 変更内容を確認します。



ProCurveのすべての管理型スイッチには、WebブラウザーからアクセスできるWeb サーバーが含まれています。スイッチのWebサーバーは、Webエージェントと呼ば れることもあります。Webインターフェイスは、スイッチにIPアドレスが割り当てられ るとすぐにHTTP経由で使用可能になり、スイッチの設定変更に使用できるようにな ります。表示がダイナミックに更新されるので、スイッチの動作をモニタリングする際 にも役立ちます。

ProCurve Networking	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理
リモート管理の有効化の)復習
右側の項目を、該当する説明に対	応させてください。
インハントテハイスの管理に使用(ビント: ほとんどのProCurveスイッチでは、2つが デフォルトで有効)	ユーザー名とパスワード
CLIのマネージャーレベルとオペレーター	[Clear] と [Reset]
レベルに設定するセキュリティ制御(ヒント :一方はデフォルトで設定済み、他方は null)	DHCPおよびスタティックアド レス設定
	Telnet, SSH, HTTP, SSL
物理的セキュリティを確保するために則面 パネルで設定できる制御機能	
VLAN IPアドレスのパラメーターの割り当 てに使用	

ここで、リモート管理の有効化について少し復習します。画面の右側の項目を、左側の正しい説明に対応させてください。

じ ProCurve Networking リモート管理の有効化の	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理 復習:解答
インバンドデバイスの管理に使用(ヒント: ほとんどのProCurveスイッチでは、2つが デフォルトで有効)	Telnet、SSH、HTTP、SSL
CLIのマネージャーレベルとオペレーター レベルに設定するセキュリティ制御(ヒント : 一方はデフォルトで設定済み、他方は null)	ユーザー名とパスワード
物理的セキュリティを確保するために前面 パネルで設定できる制御機能	[Clear] と [Reset]
VLAN IPアドレスのパラメーターの割り当 てに使用	DHCPおよびスタティックアドレ ス設定


モジュール4「Cisco製品との比較」で説明したように、最も広くサポートされているネットワーク検出プロトコルとして、Link Layer Discovery Protocol(LLDP)とCisco Discovery Protocol(CDP)があります。Ciscoが独自に開発したCDPは、多くのネットワーク機器ベンダーが実装しています。ProCurveデバイスはCDPパケットを発信しませんが、CiscoデバイスなどProCurve以外のデバイスが送信したCDPパケットを読み取ります。



役に立つshowコマンド

説明	ProCurve	Cisco
CDPネイバー情報	show cdp neighbor	show cdp neighbor
詳細なCDPネイバー 情報	show cdp neighbor detail	show cdp neighbor detail
詳細なCDPポート固 有のネイバー情報	show cdp neighbor < <i>port-id</i> > detail	show cdp neighbor < <i>port-</i> <i>id</i> > detail
LLDPネイバー情報	show lldp info remote	show lldp neighbor
詳細なLLDPおよび LLDP-MEDネイバー 情報	show lldp info remote all	show lldp neighbor detail
詳細なLLDPおよび LLDP-MEDポート固 有ネイバー情報	show lldp info remote <port-id></port-id>	show lldp neighbor <port-id> detail</port-id>
有ネイバー情報	<port-1a></port-1a>	<port-1a> detail</port-1a>

この表には、LLDPまたはCDPプロトコルが検出したネイバー情報を表示する際に、 ProCurveスイッチとCiscoスイッチで使用できるCLIコマンドの比較を示しています。

HP ProCurve Campus LANs ProCurve Networking 使用方法と設定方法: スイッチ管理 システムログのイベントの表示 スイッチは、発生したシステムイベントをフラッシュ中のログに保存。 ログエントリーを表示するには、show loggingコマンドを実行。 Group01(config)# show logging [-a | -r | -m | -p | -w | -i | -d | substring ...] Keys: W=Warning I=Information M=Major D=Debuq -----Event Log listing: Events Since Boot -----M 01/01/90 00:00:00 sys: 'System reboot due to Power Failure I 01/01/90 00:00:02 lacp: Passive Dynamic LACP enabled on all ports I 01/01/90 00:00:06 chassis: Slot A inserted I 01/01/90 00:00:07 dhcpr: DHCP relay agent feature enabled I 01/01/90 00:00:07 chassis: Slot B inserted I 01/01/90 00:00:08 chassis: Slot A downloading I 01/01/90 12:57:23 mgr: changing time I 05/18/09 09:14:01 mgr: new time set

"show logging" コマンドを実行すると、スイッチが起動してから記録されていたイベ ントが表示されます。イベントログの各エントリーには、4つの重要度レベル(warning、information、major、またはdebug)のいずれか、およびイベントを登録し たソフトウェアモジュールの説明(「Slot B」など)が含まれています。この例では、シ ャーシソフトウェアモジュールが、スイッチに搭載された各物理モジュールの認識状 況、およびソフトウェアの各モジュールへのダウンロード状況をレポートしています。

syslogサーバーを定義してログレポートを受信することもできます。

ProCurve Networking HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スイッチ管理

コンフィギュレーションファイルの管理に役立つコマンド

コマンド	説明
<pre>copy config <src-file> tftp <ip-address> <dst-file></dst-file></ip-address></src-file></pre>	スイッチからTFTPサーバーにコンフィギュレーショ ンファイルの名前を指定してコピー
copy <running-config startup-config="" =""> tftp <<i>ip-address> <dst-file></dst-file></i></running-config>	running configurationまたはstartup configuration をスイッチからTFTPサーバーにコピー
<pre>copy tftp config <src-file> <ip-address> <dst-file></dst-file></ip-address></src-file></pre>	TFTPサーバーからスイッチにコンフィギュレーショ ンファイルの名前を指定してコピー
<pre>copy tftp startup-config <ip-address> <dst- file></dst- </ip-address></pre>	TFTPサーバーからスイッチのstartup configurationにコンフィギュレーションファイルをコ ピー
<pre>copy config <src-file> config <dst-file></dst-file></src-file></pre>	スイッチのフラッシュ上でコンフィギュレーションファ イルを別の名前を指定してコピー
rename config <old-file> <new-file></new-file></old-file>	スイッチのフラッシュで、コンフィギュレーションファ イルの名前を変更
erase config <filename></filename>	スイッチのフラッシュで、コンフィギュレーションファ イルの名前を指定して削除
erase startup-config	startup configurationファイル、ユーザー名/パスワ ードを削除してリブート
<pre>startup-default [<primary secondary="" ="">] config <filename></filename></primary></pre>	デフォルトのコンフィギュレーションファイルをフラッ シュの指定の場所で使用するように設定

設定やシステムソフトウェアを保存したりアップロードする多くのコマンドは、Ciscoの コマンドに類似しています。頻繁に使用するコマンドの一部を上記の表に示していま す。

一部のProCurveスイッチは、コンパクトフラッシュに最大3つのコンフィギュレーションファイルを保持する機能を備えています。たとえば、Switch 8200zl、5400zl、3500yl、6200ylシリーズなどがこの機能に対応しています。また、このようなスイッチは、フラッシュに最大2つの異なるソフトウェアイメージを保持することが可能です。ソフトウェアイメージのそれぞれを異なるコンフィギュレーションファイルに関連付けることができます。

これについての詳細を確認するには、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる「student guide」(Interoperability-ILT-Courseware.zip)を参照してください。これは、講師が行う形式のトレーニング用テキストです。



Matworking 確認テスト1

ProCurve CLIは、以下のどの方法で使用できますか。(当ては まるものをすべて選択)

A. Telnet B. RTelnet C. SSH D.コンソールポート E. USBシリアル

じ ProCurve Networking 確認テスト1の解答

正解: A、C、D

Matworking 確認テスト2

Webブラウザーインターフェイスは、次のどの方法で使用できますか。(当てはまるものをすべて選択)

A. SLIP B. SSL C. RMON D. HTML E. SSH

じ ProCurve Networking 確認テスト2の解答

解答: B、D

使用方法と設定方法: スイッチ管理



include-credentialsコマンドにより、フラッシュメモリだけでなく、 running configurationにもさまざまなセキュリティ設定を追加した り、設定を表示することが可能になります。これには、どのような 認証情報が含まれますか。(当てはまるものをすべて選択)

- A. スイッチにアクセスするためのローカルマネージャー/オペレー ターのユーザー名とパスワード
- B. スイッチにアクセスするための802.1Xポートアクセスユーザー 名とパスワード

C.スイッチにアクセスするためのSSHクライアント公開キー

D. SSL証明書

E. RADIUSおよびTACACS+共有シークレット

Matworking 確認テスト3の解答

正解: A、B、C、E

Matworking 確認テスト4

IPアドレスは、次のどのコンテキストで設定しますか。(当てはまるものをすべて選択)

A. グローバルインターフェイス B. インターフェイス C. VLAN D. 物理

じ ProCurve Networking 確認テスト4の解答

正解: C

使用方法と設定方法: スイッチ管理

Matworking 確認テスト5

ProCurveデバイスはCDPをどのように使用しますか。(当てはまるものをすべて選択)

A.送信 B.読み取り C.読み取りおよび送信 D.フォワード

 ProCurve Networking 確認テスト5の解答 _{正解: B}

モジュール5-1: 使用方法と設定方法

「スイッチ管理」終了



使用方法と設定方法: スイッチ管理



ここでは、CiscoスイッチとProCurveスイッチが相互運用できるようにVLANを設定 する手順を説明します。タグ無およびタグ付VLAN(ポート)の考え方、および ProCurveとCiscoでの類似点と相違点について説明します。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: ポートとVLAN

• Ciscoでいう「アクセスポート」は、ProCurveでは「タグ無ポート」と呼ぶ

ProCurve Networking

ポートのタイプ

- Ciscoでいう「トランクポート」は、ProCurveでは「タグ付ポート」と呼ぶ
- Ciscoでいう「ポートチャネル」は、ProCurveで「トランク」と呼んでいるリンク アグリゲーションに対応する
- ProCurveでいうトランキングとは、複数のポートを統合することを意味する
 - Ciscoでは、複数のVLANを1つのポートで処理することを意味する
- PCなどのエンドユーザーデバイス1つのみを接続している場合は、この接続は タグ無である
 - Ciscoでは、このタイプのポートを「アクセスポート」と呼ぶ

ProCurveとCiscoでは、VLANの設定機能の一部に関して異なる用語を使用しています。たとえば、Ciscoデバイスのエンドユーザーポートはアクセスポートと呼ばれていますが、ProCurveでは同様のポートを「タグ無」ポートと呼んでいます。つまり、この場合、PCが送信するすべてのパケットは、標準のEthernetフレームで802.1Qへッダーがありません。

おそらく最も大きな用語の違いは、「トランク」という言葉の使い方です。ProCurveで いう「トランキング」とは、リンクアグリゲーションのことを指し、Ciscoでは、複数の VLANを伝送する1つのスイッチポートのことを指します。 ProCurve Networking HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: ポートとVLAN

ポートに関する用語: 違いの比較

スイッチポートの役割	ProCurveでの呼び方	Ciscoでの呼び方
複数のVLANからのトラフィック を伝送するスイッチ間で使用	複数のVLANに対応するタグ付 ポート	トランクポート
リンクの統合に使用	トランクポート	ポートチャネルインターフェイス
複数のVLANに対応するサー パー用に使用	複数のVLANに対応するタグ付 ポート	トランクポート
エンドユーザー用に使用 (PC、プリンターなど)	1つのVLAN用のタグ無ポート	アクセスポート、VLAN
IP電話機用に使用	音声VLANのタグ付またはタグ無 ポート	補助(音声) VLAN
エンドユーザーとIP電話機用に 使用	エンドユーザー用の1つのVLAN に対応するタグ無ポート IP電話機用のタグ付 <i>音声</i> VLAN	補助(音声) VLANに対応する アクセスポート Multi-VLAN Access Port (MVAP)

モジュール「Cisco製品との比較」で、ProCurveとCiscoでは、ポートやVLANの設定 機能の一部に関して異なる用語を使用していることを説明しました。この表は、いく つかの用語の意味とその違いを再確認するためのものです。



復習のため、現行のほとんどのCiscoスイッチとProCurveスイッチでのポートの呼 び方の概要をここに示します。これについては、モジュール「Cisco製品との比較」で 学習しました。ProCurveのスタッカブルスイッチでは、単に相対ポート番号のみを使 用してポート識別子を指定します。ほとんどのCiscoスイッチとProCurveスイッチで は、ポートパラメーターを設定するには、CLIのグローバルコンフィギュレーションコ ンテキストでinterfaceコマンドを実行します。



ここでは、これまでに学習した、その他の主な違いを示します。

Ciscoのモジュール式スイッチでは、ポート識別子はスタッカブルスイッチの場合と 同じ4つの要素から構成されます。対応するスロット番号が各モジュールにある点が 、ProCurveと異なります。

ProCurveのモジュール式スイッチでは、ポート識別子はモジュールまたはスロットを 示す、a、b、cのようなアルファベット文字のラベルで構成されます。CLIを使用する 場合は、このアルファベットのラベルに、そのモジュールでの相対ポート番号を付け て、a1、a2、a3のように指定します。



すべてのHP ProCurveスイッチでは、ポートのモードと速度をすべて手動で設定で きます。ポートの速度とモードを手動で設定すると、クロスケーブルなしでスイッチ間 の接続を可能にする、auto-MDIXが無効になります。スイッチ間リンクの速度やモ ードを手動で設定する場合は、クロスケーブルを使用する必要があります。



ProCurveスイッチのポートステータスは、CLI、メニューインターフェイス、または Webインターフェイスから表示できます。



ProCurveデバイスでは、1つのリンクが複数のVLANを伝送するように設定するには、その特定のVLANのコンテキスト内でポートを「タグ付」に設定します。

この例では、ポートa1は、VLAN 11、12、13にタグ付けされています。VLAN 1については、ポートをタグ無に指定する必要はありません。これは、すべてのスイッチポートの初期設定でこのように設定されているためです。この例の場合、ProCurveスイッチのポートa1では、タグ付ユーザーVLANトラフィックを伝送する物理リンクでタグ無VLAN 1トラフィックも許可されます。

上記には、Ciscoデバイスで同様の設定を行う場合の比較も示しています。



「アクセスポート」の設定は簡単です。この場合、エンドユーザーのPCまたは他のタ イプのエッジデバイスに接続しているポートは、1つのVLANに所属します。

ProCurveスイッチでは、通常、このようなポートはVLANのタグ無メンバーに設定します。たとえば、CLIコマンドvlan 2 untagged a1を実行すると、上記と同様の設定ができます。

Ciscoスイッチの場合は、switchport access vlan 2 コマンドを実行します。その後、 switchport mode accessコマンドを実行して、このポートをアクセスポートに設定し ます。



この例では、1台のコンピューターと1台のIP電話機がスイッチポートを共有しています。IP電話機はスイッチポートに接続され、コンピューターはIP電話機に接続されています。

多くのIP電話機は802.1Qをサポートしているので、ProCurveスイッチの場合は、コマンドvlan 11 untagged a1を使用してポートをVLAN 11のタグ無ポートに設定し、 コマンドvlan 12 tagged a1を使用してポートをVLAN 12のタグ付に設定し、さらに VLAN 12に対してvoiceコマンドを使用して音声VLANも設定します。このコマンドを 実行すると、電話機が音声フレームのプライオリティをまだマーキングしていない場 合に、VLAN 12のトラフィックのプライオリティが自動的に高く設定されます。



ここでは、ある建物での設定を例に説明します。上記は、建物の2階の設定を示して います。アップリンクポートは、VLAN 11、12、13の「タグ付」メンバーとして定義され ています。つまりこの場合、このポートで送受信する各VLANのパケットに802.1Qタ グが付いている必要があります。この例では、VLAN 11パケットを示すタグ、VLAN 12パケットを示すタグ、VLAN 13パケットを示すタグがそれぞれ付加されます。スイ ッチは、伝送する各VLANに対応するパケットに適切なタグを付加します。リモート管 理アクセス対応にする場合は、ポートをVLAN 1のタグ無メンバーのままにします。



上記は、1階にあるIT部門のCiscoスイッチに接続する、2階にあるProCurveスイッ チのアップリンクポートを示しています。IT部門のスイッチには、IPアドレス 10.1.11.1/24のVLAN 11用の論理インターフェイスがあり、VLAN 11のすべてのホ ストのデフォルトゲートウェイとして機能しています。この設定により、VLAN 11ホス トは、ACLの設定に従って、他のVLANのネットワークサービスにアクセスできるよう になります。



IT部門にあるCiscoスイッチは、さまざまなユーザーVLANへのアクセスに対応して います。VLAN間でフォワーディングできるようにするには、いくつかの手順を実行す る必要があります。まず、他のフロアにあるスイッチに接続するアップリンクポートを 設定します。これには、switchport trunk allowed vlanコマンドを使用して、対応する 各VLAN内のポートに「タグ付け」し、このようなアップリンク経由で伝送するVLANを 指定します。



IT部門のスイッチは、複数のVLAN間でトラフィックをフォワーディングする必要があ ります。この機能を有効にするには、VLANポートのタグ付けに加え、2つの設定手 順を実行する必要があります。つまり、IPルーティングを有効にし、各VLANにIPアド レスを割り当てる必要があります。



show ip routeコマンドを使用すると、設定済みのすべてのVLANインターフェイスの ルーティング情報を調べることができます。

ここに示すように、IT部門のスイッチのIPルーティングテーブルには、スイッチが認 識している、直接接続されているネットワークアドレスすべてが入っています。スイ ッチはこのテーブルを使用して、トラフィックを各宛先ネットワークに転送する際に使 用するインターフェイスを決定します。



役に立つshowコマンド

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: ポートとVLAN

説明	ProCurve	Cisco
ポートステータスの確認	show interfaces brief	show interfaces status
ポートカウンターと使用率の確 認	<pre>show interfaces <port-list></port-list></pre>	<pre>show interfaces <port-list></port-list></pre>
設定されているVLANの確認	show vlans	show vlan brief
ある特定のVLANの詳細の確 認	show vlans <vlan-id></vlan-id>	show vlan < <i>vlan-id</i> >
ポートが所属しているタグ無 VLANの確認	show vlans ports <port-list> detail</port-list>	show interfaces status
Ciscoレイヤー2ポートである かどうかの確認		<pre>show interfaces <port-list> switchport</port-list></pre>
ポートに設定されているVLAN の確認	show vlans ports <port-list> detail</port-list>	<pre>show interfaces <port-list> trunk</port-list></pre>
複数のVLANがあるポートの 確認	show interfaces brief	show interfaces trunk

この表には、VLANや関連する設定情報を表示する際に、ProCurveスイッチと Ciscoスイッチで使用できるCLIコマンドを示しています。



HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: ポートとVLAN

確認テン 右側にあるPr	スト1 roCurve の用語を、該当するCis	coの用語に対応させてください。
ProCurve	Cisco	
	トランクポート	- ProCurveの用語:
	ポートチャネルインターフェイス	- ●複数のVLANに対応するタグ付 ポート
	トランクポート	•IP電話機用のタグ付 音声 VI AN
	アクセスポート、VLAN	●複数のVLANに対応するタグ付 ポート
	補助(音声) VLAN	•トランクポート •トランクポート •1つのVLAN用のタグ無ポート
	補助(音声) VLANに対応するアクセ スポート	•エンドユーザー用の1つの VLANにあるタグ無ポート
	Multi-VLAN Access Port(MVAP)	•Voice VLANのタグ付またはタ グ無ポート

ProCurve

ゆ 確	『ProCurve Networking 認テスト1の解答	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: ポートとVLAN
	ProCurve	Cisco
	複数のVLANに対応するタグ付ポート	トランクポート
	トランクポート	ポートチャネルインターフェイス
	複数のVLANに対応するタグ付ポート	トランクポート
	1つのVLAN用のタグ無ポート	アクセスポート、VLAN
	Voice VLANのタグ付またはタグ無 ポート	補助(音声) VLAN
	エンドユーザー用の1つのVLANにあ	補助(音声) VLANに対応するアク セスポート
	るララ ホハート IP電話機用のタグ付 <i>音声</i> VLAN	Multi-VLAN Access Port(MVAP)

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: ポートとVLAN



HP ProCurveのモジュール式スイッチでは、以下のどのタイプの文字でスロットにラベル付けしますか。

A.番号のみ B.アルファベットと番号 C.アルファベットのみ D.記号
Matworking 確認テスト2の解答

正解: C



HP ProCurveデバイスのコンフィギュレーションコンテキストで "vlan 20"と入力した後、ポートA13をVLAN 20にするには、以下 のどのコマンドを実行しますか。

> A.tagged a13 B.trunked a13 C.a13 tagged vlan 20 D.a13 trunked vlan 20

Matworking 確認テスト3の解答

正解: A

Matworking 確認テスト4 HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: ポートとVLAN

ProCurveスイッチのIPアドレスはどこで割り当てますか。

- A. インターフェイスコンテキスト内
- B. ポートコンテキスト内
- C. VLANコンテキスト内
- D. グローバルコンテキスト内

Mar ProCurve Networking 確認テスト4の解答

正解: C

モジュール5-2: 使用方法と設定方法

「ポートとVLAN」終了



使用方法と設定方法: ポートとVLAN



ここでは、Cisco EtherChannel、HP Port Trunkingなど、リンクアグリゲーションの 方法に関する基本的な考え方、およびリンクアグリゲーションに関するIEEE 802.3ad 標準(LACP: Link Aggregation Control Protocol)について説明します。

ProCurve Networking リンクアグリゲーションの方法

Cisco EtherChannel

- 同じ速度の最大8個のリンクで「ポートチャネル」グループを作成する場合
 に使用
- スタティックに定義、またはPAgPを使用してダイナミックに構成可能

HP Port Trunking

- HP ProCurveでは、リンクアグリゲーションのことを「トランキング」という
- ProCurveでの「トランク」とは、同じリンクにある複数のVLANのことではなく、「リンクアグリゲーション」を意味する
- スタティックに定義した最大8個の同じ速度のリンクに対応

IEEE 802.3ad LACP

- リンクアグリゲーションに関する標準に基づく方法
- スタティックに定義、またはダイナミックに構成可能

Ciscoスイッチでは、EtherChannelという独自の方法でリンクのグループを統合および設定できます。同様に、ProCurveスイッチでは、HP Port Trunkingという独自の方法を使用してリンクを統合できます。CiscoとProCurveはいずれも、業界標準の IEEE 802.3ad Link Aggregation Control Protocol(LACP)もサポートしています。

このトピックの詳細については、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる『 ProCurve and Cisco Network Interoperability Training Student Guide』のモジュ ール4を参照してください。



この図は、ProCurveスイッチとCiscoスイッチの間にスタティックトランクを設定する際に使用できるCLIコマンドを示しています。ここでProCurveとCiscoの用語の違いを思い出してください。Ciscoの環境では、"trunk"とは、ISLまたは802.1Qタグ付の複数のVLANのフレームを伝送するスイッチ間リンクを意味します。ProCurvの環境では、"trunk"とは、HP Port TrunkingまたはLACPのいずれかを使用してリンクアグリゲーションを行うことを意味します。



この図では、トランクを定義する前は、スイッチのアップリンクは、VLAN 11のタグ付 トラフィックとVLAN 1のタグ無トラフィックを伝送する1つのポート(ポート48)です。

ポート47と48を論理エンティティ"Trk1"(トランクに統合したリンクグループの論理インターフェイス)に割り当てて、2つのポートをトランキングしてアップリンクとして使用するようにスイッチを設定すると、このアップリンクを通過するVLAN 11のホストが隔離されます。そのため、VLAN 11のタグ付メンバーであったポート48とVLAN 11との関連付けが解除されます。

Edge01_A(config)# interface 47 name Edge01_A(config)# interface 48 name Edge01_A(config)# show trunk	'Link-1 to Cisco Switch' 'Link-2 to Cisco Switch'
Load Balancing	
Port Name	Type Group Type
47 Link-1 to Cisco Switch 48 Link-2 to Cisco Switch	+ 100/1000T Trk1 Trunk 100/1000T Trk1 Trunk
ポートごとにフレンドリポート名を	定義してわかりやすくすることが可能

上記は、スタティックに定義したトランクのProCurve側のステータスを示しています。ここでは、管理上の規則に従って、フレンドリポート名を設定しています。



ここには、ProCurveスイッチとCiscoスイッチ間のトランクにLACPを設定する方法を 示しています。ProCurve側では、trunkコマンドで "trunk"ではなく"lacp"を指定して います。これは、LACPプロトコルを使用してトランクを構成することを意味します。ト ランクの他方の側がLACPに対応している場合は、トランクが自動的に構成されま す。

Cisco側では、"mode" パラメーターを使用して、トランクの物理インターフェイスをパ ッシブモードまたはアクティブモードに指定します。パッシブモードの場合は、LACP BPDUがアクティブに送信されますが、パッシブモードでは、最初の受信への応答と してのみLACP BPDUが送信されます。



役に立つshowコマンド

説明	ProCurve	Cisco
リンクアグリゲーション に所属するポートを確 認	show trunk	<pre>show etherchannel <port- channel=""> [summary detail]</port-></pre>
ポートが所属している リンクアグリゲーション を確認	show trunk <port></port>	<pre>show interfaces <port> etherchannel</port></pre>
出カトラフィック用に使 用するロードバランシ ングアルゴリズムの確 認		show etherchannel load- balance
特定のLACP情報の表 示	show lacp	show lacp

この表には、スタティック/ダイナミックリンクアグリゲーションの設定を表示する際に、ProCurveとCiscoスイッチで使用できるCLIコマンドを示しています。



Matworking 確認テスト1

ProCurveスイッチにスタティックにトランクを構成するコマンドは 以下のどれですか。

- A. lag <port range> <trunk name> trunk
- B. trunk <port range> <trunk name> trunk
- C. lag <trunk name> <port range> trunk
- D. trunk <trunk name> <port range> trunk

じ ProCurve Networking 確認テスト1の解答

正解: B

設定方法と使用方法: リンクアグリゲーション



他のスイッチがアクティブモードの場合に、ProCurveスイッチに ダイナミックにトランクを構成できるようにするコマンドは以下の どれですか。

A.trunk <port range> <trunk name> lacp B.trunk <trunk name> <port range> trunk C.trunk <port range> <trunk name> PagP D.lag <trunk name> <port range> trunk



正解: A

設定方法と使用方法: リンクアグリゲーション

モジュール5-3: 使用方法と設定方法

「リンクアグリゲーション」終了



設定方法と使用方法: リンクアグリゲーション

モジュール5-4: 使用方法と設定方法 スパニングツリーの実装 PVST+とMSTPを使用したスパニングツリーの実装

ここでは、スパニングツリーの実装に関する考慮事項、およびCisco Per VLAN Spanning Tree Plus(PVST+)とIEEE 802.1Q Multiple Spanning Tree Protocol(MSTP)の設定手順について説明します。

Cisco製品のエキスパートであれば、スパニングツリープロトコル(STP)に精通して いるはずですが、PVST+とMSTP(8021.Q)を使用したネットワークを適切に統合す るには、その相互運用性について理解する必要があります。ここでは、その主要な ポイントを中心に説明します。



スパニングツリープロトコル(STP)に関する最初の基準は、IEEE 802.1D-1998仕様に規定されています。STPに関するその後のリビジョンでは、Rapid Spanning Tree Protocol(RSTP)が規定され、IEEE 802.1w-2001仕様として定義されました。RSTPでは、スパニングツリーのコンバージェンス時間を削減するパフォーマンス上の改良が加えられています。IEEE 802.1wは現在、IEEE 802.1D- 2004仕様のサブセットになっています。

スパニングツリーの動作について復習するには、このコースの英語版Webトレーニ ングに含まれる『ProCurve and Cisco Network Interoperability Training guide』の モジュール5を参照してください。



Ciscoは、独自プロトコルPer VLAN Spanning Tree(PVST)、およびその改良版で あるPer VLAN Spanning Tree PlusとRapid PVST+を開発しました。PVST+は、 PVSTと同じ機能を備えていますが、Ciscoのスイッチ間リンク(ISL)に加え、 802.1Qトランキングに対応しています。Rapid PVST+は、そのコンセプトの点で RSTPに類似しており、コンバージェンス時間が改善されています。PVST+という場 合、特に違いを明示する必要がある場合以外は、一般的にはこれら3つのプロトコ ルすべてを指します。



IEEE 802.1s MSTPは、標準に準拠したスイッチが、冗長リンクを構成する複数の 論理パスを設定できるようにするために開発されました。IEEE 802.1sは、最終的に はIEEE 802.1Q仕様のサブセットになりました。

MSTPは、802.1Qを拡張して、VLANのグループを別のスパニングツリーに割り当 てられるようにしたものです。インスタンスを選択して、適用可能な複数の論理パス にレイヤー2ネットワーク経由でマッチさせることができます。多くの場合、PVST+の ようにVLANとインスタンスを1対1マッチングするのではなく、少数のインスタンスの みが必要です。

CiscoとProCurveの相互運用は、IEEE標準に従って行います。Cisco環境では、ネットワークで多くの場合PVST+を使用しています。そのため、まず、PVST+とMSTPの相互運用性について説明します。



PVST+とMSTPの相互運用性を理解するにあたって最も重要なポイントは、おそらく、それぞれで使用するMACアドレスと、MACアドレスが実際に使用される場合について理解することです。

この図は、特定のスパニングツリープロトコルに対応するスイッチ間の通信に使用されるスパニングツリー制御メッセージ(BPDU: Bridge Protocol Data Unit)の概要を示しています。複数のベンダーのスイッチ間で相互運用を行う場合には、宛先MAC アドレスなどのBPDU形式が同じになっている必要があります。

最初のBPDUは、IEEE 802.1D-1998スパニングツリーフレームに基づいています。 このBPDUはタグ無で、標準のMACアドレスを使用します。同様に、2番目のBPDU はRSTPに対応し、3番目のBPDUはMSTPに対応し、いずれもタグ無で、標準の MACアドレスを使用します。MSTP BPDUは、Common Spanning Tree(CST)イン スタンス、およびMSTP固有インスタンスに関する情報も含んでいます。



4番目のBPDUは、Cisco PVST+フレームで使用される形式を示しています。 PVST+ BPDUには3種類の形式があります。

1. CiscoのネイティブVLANの場合と同様に、VLANがタグ無であり、かつVLAN 1が トランクで許可されている場合は、ネイティブVLANはタグ無BPDUを許可します。こ のタグ無BPDU形式は、IEEE標準に準拠する、Cisco以外のすべてのデバイスが 認識できるIEEE宛先MACを使用します。



2. VLAN 1が許可されていない場合でも、BPDUはタグ無になりますが、Cisco形式 のMACアドレスを使用します。この場合、ProCurveスイッチは、自身を宛先として認 識しないので、このBPDUを認識できません。PVST+とIEEE標準のスパニングツリ ーを相互運用するには、トランクポートでVLAN 1を許可する必要があります。もちろ ん、ネイティブVLANが必要ですが、VLAN 1を許可する必要があります。



3. タグ付でトランクポートから送信されたPVST+ BPDUは、ProCurve機器が認識 できないCisco形式のMACアドレスを使用します。ProCurveスイッチは、同じVLAN IDを持つタグ付ポートでこのようなBPDUを受信した場合、これをフォワーディングし ます。



この図は、Ciscoスイッチ間でPVST+を使用している簡単なネットワークの例です。 この例は、ロードバランシングに対応しません。ディストリビューションレイヤーに Ciscoスイッチが2台あり、エッジにProCurveスイッチが1台あります。Switch_Aが、 すべてのVLANのルートになっており、Switch_Bがバックアップルートになっていま す。

また上記には、この場合の利点と欠点も示しています。



この図は、CiscoスイッチからみたVLANトポロジを示しています。1つはVLAN 1に ついて、もう1つはその他すべてのVLANについて示しています。

VLAN 1では、標準のBPDUが交換されているので、ProCurveスイッチは標準の BPDUを認識し、そのポートの1つをブロック状態に設定しています。この例は、 ProCurveがSTP、RSTP、またはMSTPを使用して動作していることを想定していま す。どのスパニングツリープロトコルが実行されている場合でも、結果は同じになり ます。

この他のVLANに関しては、CiscoスイッチはProCurveスイッチからのすべての BPDUできません。それはProCurveスイッチの右側のポートがブロックされており、 ProCurveスイッチは通常のパケットと同様にタグ付BPDUを送信しないためです。 結果的に、Ciscoスイッチは、Ciscoスイッチ以外の他のネイバーを認識しません。 Ciscoスイッチは、Ciscoスイッチ間でやり取りする以外のBPDUを受信しないので、 どのリンクもブロックしません。



ここでは、CiscoスイッチにPVST+を設定する場合の詳細について説明します。

- 最初のCLIコマンドは、スパニングツリーモードをRapid PVSTに設定して、この プロトコルを各VLANで使用できるようにするものです。
 2番目のCLIコマンドは、システムIDを拡張して、最大4096個のすべてのVLAN を使用できるようにします。"spanning-tree pathcost method long" コマンドを実 行すると、RSTPとMSTPで使用されているパスコストをスイッチが使用するよう にできます。
- 2. 各VLANで使用するプライオリティ値を指定しています。
- 3, 4. これらのコマンドは、インターフェイスコストとポートプライオリティ値の設定方 法の例を示しています。



この図は、PVST+をサポートしていないProCurve機器および他のベンダーの機器 に影響を与えるBPDUフレーム形式を示しています。

以降の数ページでは、これについて説明します。



Ciscoスイッチのトランクポートに関する最初のシナリオでは、ネイティブVLANが VLAN 1、許可されているVLANがVLAN 1、11~13です。 VLAN 1では、Ciscoスイ ッチは、ProCurveスイッチが認識できる標準のRSTP BPDUをタグ無フレームとし て送信します。

その他のVLAN 11~13では、Ciscoスイッチは、レイヤー2宛先アドレスとしてCisco MACアドレスを持つタグ付PVST+ BPDUを送信します。ProCurve機器は、このよう なフレームを認識できません。



Ciscoスイッチのトランクポートに関する2番目のシナリオでは、VLAN 1が許可され ていません。VLAN 1は必ずしもネイティブVLANである必要はありません。Ciscoト ランクポートでVLAN 1を許可しない場合は、Ciscoスイッチは、タグ付PVST+ BPDUのみを送信し、標準のBPDUは送信しません。これにより、Ciscoスイッチと ProCurveスイッチの相互運用上の制約が発生することを防ぎます。

Marworking Cisco Rapid PVST+: トランク	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装 ポートで送信されるBPDU
<pre>interface GigabitEthernet 1/1 switchport trunk encapsulation dotlq switchport trunk native vlan 1 switchport trunk allowed vlan 1,11-13 switchport mode trunk</pre>	タグ無VLAN 1のRSTP BPDU タグ付VLAN 11、12、13の PVST+ BPDU
<pre>interface GigabitEthernet 1/1 switchport trunk encapsulation dot1q switchport trunk native vlan 1 switchport trunk allowed vlan 11-13 switchport mode trunk</pre>	タグ無VLAN 1およびタグ付VLAN 11、12、13のPVST+ BPDU
VLAN 1がトランクポートで許可されていないと	上、IEEE BPDUが送信されない

標準のBPDUは、任意のVLAN番号のネイティブVLANで送信できることを思い出し てください。ネイティブVLANでは、VLAN 1が許可されている限り、BPDUはIEEE標 準に従います。ProCurveスイッチの動作に実際に関連する設定は、Ciscoのネイテ ィブVLANの設定と、VLAN 1の許可に関する設定です。



Ciscoスイッチのアクセスポートは、音声VLANを処理する設定になっていない限り、 IEEE標準のBPDUを送信します。ポートをIP電話機用に設定した場合は、Ciscoは 標準のBPDUを送信しなくなります。IP電話機用に設定したポートにはスイッチを接 続しないので、通常、これは問題になりません。ベストプラクティスとしては、スイッチ 間リンクを設定する場合にはトランクポートを使用します。このようにすれば、確実に IEEE標準のBPDUを送信できます。



ここには、ProCurveスイッチの設定例を示します。Ciscoスイッチに接続しているポートは、VLAN 1でタグ無、およびVLAN 11、12、13でタグ付になっています。 ProCurveスイッチではデフォルトでスパニングツリーが有効になっていないので、使用する場合はこれを有効にする必要があります。Ciscoスイッチでは、デフォルトで 有効になっています。


ここには、図の左側にあるCisco Switch_Aの設定例を示しています。このスイッチは、すべてのVLANのルートに設定されています。



ここには、図の右側にあるCisco Switch_Bの設定例を示しています。このスイッチ は、Switch_Aよりも高いプライオリティ値が設定されているので、すべてのVLANの バックアップルートに設定されます。

Ciscoスイッチのプライオリティ値は、ProCurveの従来のプライオリティと同様に0~ 32,768の間で設定できます。ProCurveスイッチでRSTPまたはMSTPを使用する場 合、プライオリティ値は0~15の間で順に増加させることができます。ProCurveと Ciscoのプライオリティをマッチさせるには、ProCurveのプライオリティ値に4,096を 乗算します。たとえば、ProCurveでのプライオリティ1は、Ciscoでは4096になります。



この例は、CiscoスイッチとProCurveスイッチを設定してロードバランシングを行う方 法を示しています。この例での最適な実装方法を理解するには、これまでに学んだ 原則が役に立ちます。

ProCurveとCiscoの違いは、Ciscoスイッチではプライオリティ値の設定が異なる点のみです。適切にロードバランシングを行うには、ProCurveスイッチではブロック せず、Ciscoスイッチでブロックされるように設定する必要があります。 Ciscoスイッチ側でブロックする理由は、Ciscoのバックアップルートが、ProCurveス イッチが使用するパス経由でPVST+BPDUを受信できるようにするためです。

また、上記には、この例の場合の利点と欠点を示しています。ロードバランシングの 詳細については、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる『ProCurve and Cisco Network Interoperability Training guide』を参照してください。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

 Working 使用方法と設定方法:スパン MSTPの実装

 ✓ PVST+の実装

 MSTPの実装

 - 概念と動作の復習

 - グローバル設定

 - MSTPインスタンスへのVLANの割り当て

 - CiscoスイッチとProCurveスイッチの設定

 MSTPの相互運用性と互換性

 Spanning Tree Hardening

これまでに、PVST+の実装について説明しました。次に、MSTPの実装について説明します。

CiscoとProCurveの相互運用性は、IEEE標準に従うことによって実現できます。しかし、Cisco環境では、多くの場合、ネットワークでPVST+を使用しています。CiscoとProCurveの両方のデバイスでIEEE標準を使用する場合は、標準ベースのモデルに従うことを推奨します。ただし、設定に関していくつかの点を考慮する必要があります。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

MSTリージョン

複数のスパニングツリーインスタンスを集合的に定義するスイッチのグループは、 MSTリージョンと呼ばれる

•各スイッチは1つのリージョンのみに所属できる

設定属性が同じスイッチは、同じMSTPリージョンに所属する
 MST設定名(32バイト、大文字小文字を区別)
 MST リビジョン番号(2バイト)
 対応するVLAN割り当てがあるMSTインスタンス

スイッチは、以下のスイッチからBPDUを受信すると リージョン境界を定義する

MSTPの設定例

・設定属性が異なるMSTPスイッチ
・STPまたはRSTPスイッチ

(設定名 = "PCU"
 リビジョン番号 = 1
 インスタンス1 = VLAN 1、12
 インスタンス2 = VLAN 11、13

MSTPは、同じMSTP設定を持つ1つ以上のスイッチで構成されるリージョンという考 え方に基づいています。MSTPでは、受信するMST BPDUの内容に基づいてMST リージョンの境界をダイナミックに判断します。すべてのMSTスイッチは、VLANとス パニングツリーインスタンスを関連付けるテーブルのメッセージダイジェストを作成し 、そのダイジェストをBPDUで送信します。BPDUを受信すると、MSTが有効になっ ているスイッチがダイジェストを抽出して、送信されたダイジェストと自身のダイジェ ストを比較します。名前とダイジェストが一致した場合は、BPDUを送信したスイッチ は、そのBPDUを受信したスイッチと同じリージョンの一部となります。名前とダイジ ェストが一致しない場合は、これらのスイッチは異なるリージョンに所属することにな ります。このときの、トランザクションに関与するポートは、リージョン間の境界と見な されます。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

MSTインスタンス

各MSTインスタンス(MSTI)には1つ以上のVLANが含まれる •インスタンスとVLAN間のマッピングは、ある特定のMSTPリージョンにある

スイッチ間で同じになっている必要がある

1つのMSTリージョンに、最大16個のMSTIを定義可能

Internal Spanning Tree(IST)インスタンスには、他のインスタンスに割り当 てられていない1~4094のすべてのVLANが含まれる •ISTインスタンスは、「デフォルトの」インスタンスとして機能する

MSTIから削除されたVLANは、ISTインスタンスに割り当てられる

MSTP を有効にするとすぐに、スイッチに設定されたすべてのVLANは、MSTリージョン内に存在するRSTPインスタンスであるIST(Internal Spanning Tree)の一部となります。新しいインスタンスを追加してVLANに関連付けると、そのVLANはISTから削除されます。ただしISTは、明示的にマッピングされているVLANがない場合でも削除されません。

ほとんどの場合、ユーザー定義のVLANは、MSTリージョン内のすべてのスイッチで 同様に設定されたユーザー定義のインスタンスに関連付けられます。デフォルト VLAN(VLAN ID 1)は、常にISTに関連付けられています。これにより重要な利点 が得られます。つまり、VLANからインスタンスへのマッピングの設定が間違ってい ても、ISTとVLAN 1の関連付けがあることによって接続性が完全には失われないた め、スイッチにアクセスすることができます。



この図は、2つのMSTリージョンがある場合の例を示しています。リージョン1は以前 から存在し、MSTリージョンが正しく設定されています。リージョン2は、誤って他の スイッチと異なる設定名を指定したために作成されたものです。MSTの設定名では 、大文字小文字が区別されます。



HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

じ ProCurve Networking 確認テストの解答

正解: PCU (大文字小文字を区別する)



MSTPリージョン内では、そのリージョンのメンバーになっているスイッチ間でMSTP BPDUが交換されます。MSTPリージョン外では、ISTインスタンスの設定を特定す るRSTPまたはSTP BPDUが送受信されます。MSTのメンバーとRSTPまたはSTP BPDUを交換するリンクがMST境界です。



Common Spanning Tree(CST)機能は、MSTP、STP、およびRSTPを相互運用で きるにようにします。通常、CSTは、STPとRSTPを実行しているスイッチから受信し たBPDUを基に、ISTとシングルスパニングツリー(SST)ドメインから構成されます。 このようにして、CSTは、すべてのISTインスタンスとすべてのSSTドメイン間にルー プのないパスを1つ作成します。

この例では、上部の2つのスイッチが1つのMSTリージョンを構成し、MSTP BPDU を交換しています。下部の2つのスイッチではRSTPが実行されており、上部のスイ ッチがMSTPを実行していることを認識しません。下部の2つのスイッチは、RSTPを 実行している別のスイッチとしてこれらのMSTPスイッチを認識します。



すべてのスイッチがMSTPを実行しているネットワーク環境でMSTPのロードバラン シング機能を活用するには、適切な設定が必要です。まず、別のVLANトポロジを構 成するための冗長リンクがネットワークに必要です。また、別のMSTインスタンスを 設定して、それぞれに別のVLANグループを割り当てる必要があります。このプロセ スの一環として、同じMSTリージョン内のコアスイッチまたはディストリビューションス イッチには別々のプライオリティを割り当てます。ISTインスタンスにも同様の方法で プライオリティを設定する必要があります。



MSTPは、VLANポートの設定に関係なく各インスタンスにトポロジを作成します。ポートは、ある1つのMSTインスタンスのルートポートまたは代替ポートになります。これは、このポートが、このインスタンスのVLANに所属しているかどうかには関係しません。



MST環境を適切に設定するには、ブロックされていないポートで特定のVLANを伝送できるようにします。トポロジの変更が発生してバックアップポートがアクティブになった場合の設定も同様に行います。



MSTリージョンに影響するさまざまなネットワーク障害に備えて確実にすべてのアク ティブ/バックアップリンクを設定するには、すべてのリンクのすべてのVLANにタグ 付けします。これは簡単な方法ですが、ブロードキャストドメインがネットワーク全体 に及んでしまう欠点もあります。代替として、VLANを詳細に設定する方法がありま すが、これにはさまざまなリンク障害を想定する必要があるので時間がかかります。



ここでは、MSTPを実行しているスイッチに新しいVLANを定義する場合を考えます 。直接の影響はどのようなものでしょうか。VLANを定義しただけでは、MSTP設定 ダイジェストは変更されず、スイッチは、そのMSTPリージョン内でのみ認識されます 。これには2つの理由があります。1つは、特定のMSTPインスタンスに割り当てられ ていないすべてのVLAN(1~4094)が、デフォルトでISTインスタンスにマッピングさ れることです。これには、スイッチにまだ定義されていないVLANも含まれます。もう 1つの理由は、このVLANが特定のVLANインスタンスにまだ割り当てられていない ことです。

この図の例では、上記の4つのスイッチそれぞれにVLAN 14が定義されています。 showコマンドを実行すると、ISTインスタンスにはVLAN 14がありますが、MSTイン スタンスにはVLAN 14が含まれていないことを確認できます。



ネットワーク管理者としてこの新しいVLANを実装する場合は、MSTPに関して必要 な変更をスイッチに1つずつ設定する必要があります。もちろん、起動用の設定を準 備しておくこともできますが、必ずしもすべてのスイッチを一度に起動することはでき ません。

この図では、Switch_D上でMSTインスタンス2にVLAN 14が割り当てられています が、この変更は、他のスイッチにはまだ適用されていません。その結果、Switch_D は新しいリージョン(リージョン2)に所属しています。これにより、Switch_Dは、 Switch_AおよびSwitch_BとRSTP BPDUを交換するようになります。この状態に移 行するには、通常、数秒かかります。



ここでは、最後に、LLDPがSTP、RSTP、MSTPと連携する方法について説明しま す。他のすべての「データ」パケットとは異なり、LLDPパケットはブロックされたポー トで送受信されます。そのため、スイッチのLLDPテーブルには、他のすべての隣接 スイッチが表示されています。隣接スイッチに関する情報のみを持つSTP、RSTP、 またはMSTPとは、この点が異なります。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

MSTPの一般的な設定手順

MSTPを設定する場合に推奨される手順

1. 必要なVLANを作成する

- 2. MSTPに対してスパニングツリープロトコルを有効にする
- 3. リージョンパラメーターを定義する
 - 設定名、リビジョン番号、インスタンス
- 4. プライオリティを設定して、各MSTインスタンスのルートおよびセカンダ リルートを定義する
- 5. アップリンクポートとエッジポートの特性を設定する
- 6. スパニングツリーを有効にする
- 7. 冗長ケーブルを接続する

MSTPでは、VLANを異なるインスタンスに割り当てることで、冗長リンクを使用でき るようにします。MSTPは、VLANを認識するスパニングツリーを簡単に設定できる ようにしますが、帯域幅と冗長リンクを効率的に使用できるようにするには、慎重な プランニングが必要となります。効率的なMSTP設定を行うには、まず基本的な方 針として、上記の手順に従います。



ここでは、CiscoスイッチにMSTPを設定する方法の詳細について説明します。 Ciscoスイッチがネットワークで正常に稼動しており、必要とするすべてのVLANが 設定されていることを前提とします。

まずはじめに、スパニングツリーモードをMSTPに設定します。次に、MSTの設定(MSTの設定名、リビジョン番号、およびVLANとMSTインスタンスのマッピング情報) を定義します。

じ ProCurve Networking Cisco機器でのMSTPの設	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装 定(続き)
• ブリッジプライオリティを変更して、MST-	インスタンスごとにルート選択を調整
Cisco(config)# spanning-tree mst <in< b=""></in<>	stance-id> priority 4096
• 必要に応じて、MSTインスタンスごとにイ	ンターフェイスコストを変更
Cisco(config)# interface gigabitethe Cisco(config-if)# spanning-tree mst	rnet1/1 1 cost 10000
• 必要に応じて、MSTインスタンスごとに- 変更	インターフェイスのプライオリティを
Cisco(config)# interface gigabitethe Cisco(config-if)# spanning-tree mst	ernet1/1 1 port-priority 4

先に説明したCisco PVST+の設定方法と同様に、MSTPの場合もコアスイッチまた はディストリビューションスイッチにブリッジプライオリティの設定が必要です。当然、 CLIのコマンド構文は異なりますが、最も重要な違いは、PVST+ではVLANインスタ ンスを個別に設定するのに対し、MSTPではMSTインスタンスごとにブリッジプライ オリティを設定する点です。

また、インターフェイスコストとインターフェイスプライオリティをMSTインスタンスごと に設定することも可能です。



グローバルコンフィギュレーションレベル、またはインターフェイスごとに、portfast設 定を適用して、エンドユーザーのポートをエッジポートに設定します。



HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

ProCurve機器でのMSTPの設定

すべてのProCurveスイッチで以下を実行: •VLANおよびタグアップリンクを作成(まだ作成していない場合)

Switch(config)# vlan 11 tagged 47,48
Switch(config)# vlan 12 tagged 47,48
Switch(config)# vlan 13 tagged 47,48

この図は、ProCurveスイッチでMSTPを設定する場合のCLIコマンドを示しています 。これらのコマンドは、VLANを定義する基本的なコマンドですが、Ciscoスイッチの みの環境にProCurveを導入する場合の参考のために記しています。ProCurveスイ ッチで実行する必要のあるその他の準備手順に加え、ネットワークで使用する VLANを定義して、そのVLANのアップリンクに対してタグ付けを設定する必要があ ります。

☞ ProCurve Networking ProCurve機器でのMSTPの	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装 ひ設定(続き)
すべてのProCurveスイッチで以下を実行: • VLANおよびタグアップリンクを作成(また	ご作成していない場合)
Switch(config)# vlan 11 tagged 47,48 Switch(config)# vlan 12 tagged 47,48 Switch(config)# vlan 13 tagged 47,48	
 使用するプロトコルとしてMSTPを設定(テ いない場合) 	フォルトのSTPプロトコルになって
Switch(config)# spanning-tree protoco Switch(config)# reload	l-version mstp
• MSTPグローバルコンフィギュレーションノ	ペラメーターを定義
Switch(config)# spanning-tree config- Switch(config)# spanning-tree config-	name "PCU-building-1" revision 1

比較的新しいProCurveスイッチ(Switch 8200zl、5400zl、3500yl、6200ylシリーズ など)では、MSTPがデフォルトのスパニングツリープロトコルになっています。その ため、ここに示すコマンドを実行して、スイッチで稼動させるスパニングツリープロト コルとしてMSTPを設定する必要はありません。

次に、MSTPの設定パラメーターを設定して、Ciscoスイッチでの定義と正確にマッ チさせる必要があります。MSTの設定名とリビジョン番号に関する設定を上記に示 しています。MST設定名は大文字小文字を区別するので注意してください。

ProCurve Networking	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装
ProCurve機器でのMSTPの	の設定(続き)
すべてのProCurveスイッチで以下を実行: • MSTインスタンスにVLANをマッピング	
Switch(config)# spanning-tree instanc Switch(config)# spanning-tree instanc	e 1 vlan 1,11 e 2 vlan 12-13
 MSTPの設定を確認 	
Switch(config)# show spanning-tree ms	t-config

MSTの設定手順には、各MSTインスタンスにVLANを割り当てる設定も含まれます。前述したように、各MSTインスタンスには、複数のVLANを割り当てることができますが、1つのVLANには、1つのMSTインスタンスしか割り当てることができません。

ProCurveスイッチでMSTPの設定を確認するには、show spanning-tree mstconfigコマンドを実行します。

HP ProCurve Campus LANs ProCurve 使用方法と設定方法:スパニングッリーの実装
ProCurveでのプライオリティの設定: ProCurve機器 がってにある場合の例
ストコノーとのる場合の方面の方面 Switch_AがISTインスタンスのルートである場合
Switch(config)# spanning-tree priority 0
Switch_AがMSTI 1のルート、およびMSTI 2のセカンダリルートである場合
<pre>Switch(config)# spanning-tree instance 1 priority 0 Switch(config)# spanning-tree instance 2 priority 1</pre>
Switch_BがISTインスタンスのセカンダリルートである場合
Switch(config)# spanning-tree priority 1
Switch_BがMSTI 2のルート、およびMSTI 1のセカンダリルートである場合
<pre>Switch(config)# spanning-tree instance 1 priority 1 Switch(config)# spanning-tree instance 2 priority 0</pre>

上記のCLIコマンドは、コアに配置した2台のProCurveスイッチにMSTPを設定する 方法を示しています。コアにある場合は、Ciscoスイッチに関して前述したように、イ ンスタンス間にロードバランシングを設定するには、ISTおよびMSTPプライオリティ 値を設定します。



HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

ProCurve機器でのポートの設定

スイッチ間のアップリンクは、非エッジかつポイントツーポイント に設定する必要がある

ここでは、ProCurveスイッチがネットワークのエッジに導入され、Ciscoスイッチがコ アにある場合のシナリオに戻ります。この場合、ProCurveスイッチで、アップリンクと エンドノードポートにMSTPを設定する方法を考慮する必要があります。

ProCurveスイッチでは、スイッチ間のアップリンクは、非エッジかつポイントツーポイントに設定する必要があります。その一方、エンドノードに接続するアクセスポートまたはエッジポートは、エッジかつポイントツーポイントに設定する必要があります。

使用方法と設定方法:スパニングツリーの実装

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

ProCurve機器でのポートの設定

スイッチ間のアップリンクは、非エッジかつポイントツーポイントに設定する必要 がある。

エンドノードに接続するアクセスポートまたはエッジポートは、エッジかつポイン トツーポイントに設定する必要がある。

ProCurveスイッチ(バージョンK.12.04以降)では、デフォルトですべてのポート がMSTP自動エッジモードで動作。

• 以下を指定するのと同様の設定

Switch(config)# spanning-tree <port-list> auto-edge-port

- エッジポートの自動定義をサポート ポートはBPDUの有無を3秒間チェックし、ない場合は、パケットのフォワーディングを開始
- 必要に応じて、以下を実行して、ポートが直ちにフォワーディングモードに移行するように設定可能

Switch(config)# spanning-tree <port-list> admin-edge-port

バージョンK.12.04以降のソフトウェアを実行しているProCurveスイッチ(Switch 8200zl、5400zl、3500yl、6200ylシリーズ)では、デフォルトですべてのポートが MSTP自動エッジモードで稼動します。これは、spanning-tree <port-list> auto-edge-portコマンドを実行した場合と同じ設定です。

自動エッジポートの設定により、エッジポートが自動検出されます。つまり、ポートは BPDUの有無を3秒間チェックし、BPDUがない場合は、パケットのフォワーディング を開始します。必要に応じて、 spanning-tree <port-list> admin-edge-portコマンド を実行すると、ポートが直ちにフォワーディングモードに移行するように設定できま す。

TroCurve Metworking ProCurve機器でのポートの設定:	HP ProCurve Campus LANs 用方法と設定方法: スパニングツリーの実装 バージョンK.12.04
より前の場合	
バージョンK.12.04より前のソフトウェアを実行し デフォルトですべてのポートがMSTPの非エッジ ⁼ ・以下を指定するのと同様の設定	、ているProCurveスイッチでは、 モードで動作
Switch(config)# no spanning-tree <port-li< td=""><td>st> edge-port</td></port-li<>	st> edge-port
すべてのエンドユーザーポートもエッジポートに設 Ciscoでの <i>portfast</i> の設定に相当 ・以下のコマンドを実行	g定する必要がある。これは
<pre>Switch(config)# spanning-tree <port-list></port-list></pre>	edge-port

このスライドは、K.12.04より前のバージョンのソフトウェアを使用する場合のCLIコ マンド構文の違いを示しています(Switch 8200zl、5400zl、3500yl、6200ylシリーズ でサポート)。

K.12.04より前のバージョンのソフトウェアを実行しているスイッチでは、デフォルトで すべてのトランクポートとエンドユーザーポートがMSTP非エッジモードで動作します 。エンドユーザーポートをエッジポートに設定するには、spanning-tree <port-list> edge-portコマンドを実行します。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法:スパニングツリーの実装

no edge-port(旧)

auto-edge(新)

ProCurveがサポートするスパニングツリーのバージョン 802.1D-1998 STP 802.1D (802.1w) RSTP 802.1Q (802.1s) MSTP 1600M Yes 2424M No No 4000M (デフォルト) 8000M Yes Yes 2500 # span protocol-version stp No 4100gl (デフォルト) (リブートが必要) 2600 Yes Yes 2800 Yes # span protocol-version # span protocol-version stp 3400cl mstp (デフォルト) 6400cl (リブートが必要) (リブートが必要) 5300xl Yes 2510 Yes 2810 # span force-version stp-# span force-version stp-4200vl compatible Yes compatible 3500yl # span legacy-path-cost (デフォルト) 6200yl (デフォルトのポートロールを (デフォルトのポートロールを適

ProCurve Networking

5400zl

8200zl

デフォルトのSTP

ポート

ロール

用)

no mode fast

この表には、さまざまなProCurveスイッチファミリでのデフォルトのスパニングツリー プロトコルのバージョンをまとめています。一番下の行には、それぞれのスパニング ツリープロトコルのバージョンに対応するデフォルトのスパニングツリーポートロール を示しています。

edge-port

適用)

一部のスイッチでは、デフォルトのスパニングツリープロトコルを変更したり、下位互 換モードで動作させることができます。

ProVision ASICスイッチでは、デフォルトでMSTPが有効です。



MSTPを実装する最後の手順では、スパニングツリーを有効にして、冗長ケーブルを接続し、MSTPの設定を確認およびテストします。設定したスパニングツリーを「オンにする」には、ProCurveスイッチでspanning-treeコマンドを実行します。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

ProCurve機器でのMSTP設定の確認

ISTインスタンスには、他のMSTPインスタンスに割り当てられていない1~4094のすべてのVLANが含まれる

•これには、定義済みおよび未定義のVLANが含まれるが、コマンド出力には 定義済みVLANのみが表示される

ここには、ProCurveスイッチでshow spanning-tree mst-configコマンドを実行した 場合の出力例を示しています。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

ProCurve機器でのMSTP設定の確認(続き)

show spanning-tree <port-list> instance <id>コマンドを実行すると、 MSTインスタンス内のアップリンクのステータスが表示される。

Switch# show spanning-tree	47-48 in	stance 2				
MST Instance Information		[以下を	確認		
Instance ID : 2 Mapped VLANs : 11,13			・ こ る	のスイッチだ か	バルートに なってい	
Switch Priority :	32768		• <i>เ</i>	ートプライオ	トリティの値	
Topology Change Count : Time Since Last Change :	: 4 : 13 mins		・ ど て	のポートが いるか	ルートポートになっ	
Regional Root MAC Address Regional Root Priority Regional Root Path Cost Regional Root Port	s : 00097 : 0 : 20000 : 2	c-2b8100	・ ル ・ ど か	ートパスコン のポートが 、	ストの値 ブロックされている	
Remaining Hops	: 19					
Port Type Cost	Priority	Role	St	ate	Designated Bridge	
47 100/1000T 20000 48 100/1000T 20000	128 128	Alternate Root	e Bl Fo	ocking rwarding	000af4-967180 00097c-2b8100	

show spanning-tree <port-list> instance <id>コマンドを実行すると、ProCurveス イッチのMSTインスタンス内のアップリンクのステータスが表示されます。この例で は、ポート47と48が、MSTPを実行している、コアにあるCiscoスイッチへのアップリ ンクになっています。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

MSTPのトラブルシューティング

スイッチが誤ってインスタンスのルートになっている場合は、このスイッチは別のMSTPリージョンに所属する

•MSTPの設定パラメーターを確認

ルートポートがダウンして通信が遮断された場合、エッジスイッチで代替ポートのVLAN設定を確認

•代替ポートとルートポートは同じVLANを伝送している必要がある

MSTPがすぐに統合されない場合にどうするか

MSTPがすぐに統合されない場合は、アップリンクがポイントツーポイントに 設定されているかどうかを確認する

基本的なトラブルシューティングとして、スイッチが誤ってインスタンスのルートになっている場合の対応があります。これは、スイッチが別のMSTPリージョンに所属していることを意味します。まず、MSTの設定パラメーター(MSTの設定名、リビジョン番号、およびVLANとMSTインスタンスの割り当て)を確認します。

ルートポートがダウンして通信が遮断された場合は、エッジスイッチで代替ポートの VLAN設定を確認します。代替ポートとルートポートは同じVLANを伝送している必 要があります。

MSTPがすぐに統合されない場合は、アップリンクがポイントツーポイントに設定されているかどうかを確認します。



HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

役に立つshowコマンド

説明	ProCurve	Cisco
MSTの設定を確認	show span mst-config	show span mst configuration show span mst configuration digest
別のスイッチが同じ MSTリージョンにある かどうかの確認	show span instance < <i>port></i> detail MSTリージョンの境界を見つける	show span interface [<port> detail] バインド状態(PVST、RPVST、RSTP)を見 つける</port>
CSTでブロックされて いるポートの確認	show span	show span
ISTインスタンス0でブ ロックされているポート の確認	show span instance ist	show span instance 0
他のインスタンスでブ ロックされているポート の確認	show span instance < <i>id</i> >	show span instance < <i>id</i> >
最近行ったトポロジ変 更箇所の確認	show span debug-counters instance 0 port all すべてのポートについて「Topology Changes Rx」の値を確認	show span active detail

この表には、ProCurveスイッチとCiscoスイッチでMSTPの設定とステータスを確認 する場合に使用できるCLIコマンドの一部を示しています。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

 使用が Spanning Tree Hardening
 ✓ PVST+の実装
 ✓ MSTPの実装
 ✓ MSTPの相互運用性と互換性
 Spanning Tree Hardening
 – スパニングツリーの問題
 – CiscoとProCurveの保護機能

次のセクションでは、スパニングツリーで発生しうる基本的な問題や脆弱性の一部 について説明します。その後、CiscoとProCurveがサポートする、スパニングツリー の脆弱性を緩和するための保護機能の概要を説明します。

使用方法と設定方法:スパニングツリーの実装
ProCurve Networking HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

Spanning Tree Hardening機能

ProCurve	Cisco
オートネゴシエーションを使用す るRemote-Fault Notification (RFN)	オートネゴシエーションを使用す るRemote-Fault Notification (RFN)
Uni-directional Link Detection (UDLD)	Uni-directional Link Detection (UDLD)
BPDUプロテクション	BPDUガード
ループプロテクション	キープアライブ
ルートガード	ルートガード
-	ループガード

ProCurve機器とCisco機器は、いくつかのスパニングツリー保護機能を備えていま すが、これらは機能的に類似しています。CLIコマンドを使用してスパニングツリーを 強固(harden)にする点などが似ています。たとえば、ProCurveでループプロテクシ ョンと呼ぶ機能は、Ciscoではキープアライブといいます。また、ProCurveでの BPDUプロテクションは、CiscoではBPDUガードと呼ばれます。 ProCurve Networking HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングッリーの実装

Spanning Tree Hardening機能

ProCurve	Cisco
オートネゴシエーションを使用す るRemote-Fault Notification (RFN)	オートネゴシエーションを使用す るRemote-Fault Notification (RFN)

オートネゴシエーションを使用するRemote-Fault Notification(RFN)は、レイヤー1 で行われます。オートネゴシエーションは通常、Gigabit Ethernetポートでデフォルト で有効になっているので、RFNの理解に関して混乱が生じています。RFNはオプシ ョンで使用しますが、オートネゴシエーションを使用している場合はCiscoスイッチと ProCurveスイッチの両方の1000BaseXポートでデフォルトで有効になっています。 1000BaseXポートでは必ずオートネゴシエーションを使用する必要があります。

MoCurve Networking Spanning Tree Harc	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装 dening機能
ProCurve	Cisco
Uni-directional Link Dete (UDLD)	ection Uni-directional Link Detection (UDLD)

CiscoのUDLDとProCurveのUDLDが相互運用できないのは、同じ宛先MACアドレスを使用していないことが原因です。Ciscoでは、Cisco固有のMACアドレスを使用しています。ProCurveでは、標準のMACアドレスを使用しています。

ProCurve Networking HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

Spanning Tree Hardening機能

ProCurve	Cisco				
Uni-directional Link Detection	Uni-directional Link Detection				
(UDLD)	(UDLD)				
CiscoのUDLDフレーム:	l				
Ethernet II, Src: Cisco_ee:99:82 (00:0c:85:ee:99	9:82), Dst: PVST+ (01:00:0c:cc:cc:cd)				
Destination: PVST+ (01:00:0c:cc:cc:cd)					
Address: PVST+ (01:00:0c:cc:cc:cd)					
= IG bit: Grou	up address (multicast/proadcast)				
\square Source: cisco ee:00:82 (00:0c:85:ee:00:82)	Jarry unique address (ractory derault)				
Address: Cisco ee:99:82 (00:00:85:ee:99:82)					
0 = IG bit: Ind	ividual address (unicast)				
O = LG bit: Glo!	bally unique address (factory default)				
roCurveのUDLDフレーム:					
Ethernet II, Src: HewlettP_22:f2:40 (00:17:08:2	2:f2:40), Dst: FoundryN_00:00:00 (00:e0:52:00:0				
Destination: FoundryN_00:00:00 (00:e0:52:00:0	0:00)				
Address: FoundryN_00:00:00 (00:e0:52:00:00:					
= IG bit: Ind	nvidual address (unicast) hally unique address (fastery default)				
	party unique address (factory default)				
Type: Foundary proprietary (0v9955)					

上記は、キャプチャーしたフレームの例です。ここでMACアドレスの違いを確認でき ます。 HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装 Spanning Tree Hardening機能

この2つの機能に関しては、相互運用性に関する考慮事項はありません。これは、 ネットワークのエッジを保護するための設定です。

ဖြာ Spa	ProCurve Networking anning Tree Harden	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装 ing機能
	ProCurve	Cisco
	ループプロテクション	キープアライブ
	ルートガード	ルートガード
	-	ループガード

ループプロテクションとキープアライブは、特別なMACアドレスを使用してパスが有効であることを確認する同等の機能です。

ProCurveとCiscoは、ルートガードという、別のスパニングツリー保護機能にも対応 しています。ルートガード機能は、現在のルートスイッチが、新たなスイッチから高プ ライオリティ値のBPDUをポートで受信した場合の処理に対応します。





802.1sでは、タグ無BPDUをどのMACアドレスに送信しますか。

- A. 01:80:c2:20:00:00
- B. 01:00:0c:ec:cc:cd
- C. 01:80:c2:00:00:00
- D. 01:00:0c:cc:cc:cd



正解: C

使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装



Cisco環境で802.1sを使用している際に、Ciscoデバイスがタグ 無BPDUを01:80:c2:20:00:00に送信するのは以下どの場合で すか?

A.PVST+と802.1sを両方ともトランクポートで使用している場合

B.トランクポートで802.1sのみを使用している場合 C.トランクポートでVLAN 1が許可されている場合 D.トランクポートでネイティブが許可されている場合



正解: C

確認テスト2

ProCurve Networking

使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

の ProCurve Networking 確認テスト 右側にあるPro 当するCiscoの	3 Curve Spanning Tree 機能に対応させてくだ	使用方法と設定方法: スパニングッリーの実物 e Hardeningの説明を、該 さい。
ProCurve	Cisco	Dre Curve Spenning Tree
	オートネゴシエーションを 使用するRemote-Fault Notification(RFN)	Hardeningの説明: •BPDUプロテクション •Uni-directional Link Detection
	Uni-directional Link Detection(UDLD)	(UDLD) ・ループプロテクション ・ルートガード
	BPDUガード	•オートネゴシエーションを使用する
	キープアライブ	Remote-Fault Notification (RFN)
	ルートガード	-

じ ProCurve Networking 確認テスト3の解答

ProCurve	Cisco
オートネゴシエーションを使用す るRemote-Fault Notification (RFN)	オートネゴシエーションを使用す るRemote-Fault Notification (RFN)
Uni-directional Link Detection (UDLD)	Uni-directional Link Detection (UDLD)
BPDUプロテクション	BPDUガード
ループプロテクション	キープアライブ
ルートガード	ルートガード

モジュール5-4: 使用方法と設定方法

「スパニングツリーの実装」終了



使用方法と設定方法: スパニングツリーの実装

Module5-4-67

モジュール5-5: 使用方法と設定方法

PoEとVoIP電話機



ここでは、PoEの機能とその利点、およびProCurveスイッチとCiscoスイッチにPoE を設定する方法について説明します。また、CiscoスイッチとProCurveスイッチを使 ってネットワークにIP電話機を導入する方法についても説明します。Cisco製品のエ キスパートであれば、PoEとVoIPの概念について理解していることを前提としていま す。ここでは、これらの機能の実装に関して、Cisco製品とProCurve製品での相違 点と類似点を中心に説明します。



PoEの実装には、2つのタイプのデバイスが関与します。1つは「受電デバイス(PD)」と呼ばれ、「給電機器(PSE)」と呼ばれるもう1つのデバイスから電力を受け取ります。

受電デバイスは、データポート経由で電力を受け取るEthernetデバイスです。現在、このようなデバイスには、VoIP電話機、IP対応カメラ、Radio Frequency Identification(RFID)スキャナー、タブレットPCなどがあります。

ProCurve 3500yl、5400zl、8200zlシリーズなど、給電機器であるPoE対応のスイッチは、IEEE 802.3afの仕様(電圧DC47~57V、最大ワット数15.4W)を満たす必要があります。

Ethernetスイッチは、IEEE 802.3af標準に従ってCAT 5 Ethernetケーブル経由で ネットワーク信号とともに電力を供給できます。

ProCurve 8200zl、5400zl、2910alシリーズのスイッチはPoE+(802.3at)に対応し ており、Cat5Eケーブル経由で24Wの電力を供給できます。



CLIを使用すると、ProCurveスイッチの電力統計情報を調べたり、PoEの動作に関 するログとSNMPトラップを設定することができます。電力ステータスは、インターフ ェイスごと、またはシステム全体について調べることが可能です。上の図に示すよう に、システム全体のステータスを調べるコマンドでは、最大ワット数と現在使用中の 電力量が表示されます。トラップを設定またはイベントログを記録することにより、消 費電力が設定可能なしきい値を上回った場合、または下回った場合に情報を確認 できます。

ProCurveのPoE対応スタッカブル式/モジュール式スイッチでは、PoEがデフォルト で有効になっています。上記のコマンドを使用すると、デフォルトのプライオリティ設 定を変更できます。プライオリティはcritical、high、およびlowに設定できます。デフ ォルト設定はlowで、スイッチの番号が小さいほうのポートが、番号が大きいポートよ りもデフォルトでプライオリティが高くなっています。このプライオリティメカニズムで は、使用可能なワット数を超えた場合に、プライオリティがcriticalの機器が、highや lowの機器よりも先に電力を受け取ります。



HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: PoEとVoIP電話機

システム全体のPoEステータスの管理

IEEE 802.3af互換のPDに対応するProCurveスイッチは、IEEE 802.3af標準 化前のPDもサポート

802.3af標準化前のPDの例:

•Cisco 7902G、7905G、7912G、7940G、7960G VoIP電話機 •Cisco Aironet 350、1100、1200、1230AGアクセスポイント

802.3af標準化前のCiscoのVoIP電話機は、PSEへの接続にストレートケーブルが必要

IEEE 802.3af互換のPDに対応するProCurveスイッチは、IEEE 802.3af標準化前のPDもサポートします。

802.3af標準化前のPDの例を上記に示しています。

802.3af標準化前のCiscoのVoIP電話機は、PSEへの接続にストレートケーブルが 必要です。このようなIP電話機は、DC電圧の極性に依存(IEEE 802.3afとは異なる)し、Ethernetケーブルのデータペア(1、2、3、6)がVoIP電話機とPSE間がクロスケ ーブルで接続している場合は適切に動作しません。

ProCurve Networking		HP F 使用方法と設算	ProCurve Campus LAI 定方法: PoEとVoIP電話
ポートレベルの)PoEステ-	ータスの表示	
Group01(eth-3)# sho	w power eth 3		
Status and Counter	s - Port Power S	tatus for port 3	
Power Enable	:Yes		
Priority	: Low	Configured Type	: Other
Detection Status	: Delivering	Power Class	: 0
Over Current Cnt	: 0	MPS Absent Cnt	: 0
Power Denied Cnt	: 0	Short Cnt	: 0
Voltage	: 5.06 dv	Current	290 mA
Power	: 14674 mW		1
		/	
14674 mW = 14.674	W	290 mA = 50.6Vで0.2	90A
他のリストでは15Wに切り	り上げ		

特定のポートの電力設定と使用率を表示するには、特定のポート番号を指定して show power-management ethernet コマンドを実行します。上記のスイッチでは、 指定のポートに接続されているPDに15Wの電力を供給しています。

ProCurve Networki	ng			使用力	HP ProCur う法と設定方法:	rve Campus L/ : PoEとVoIP電詞	
べての	 のポー	-トのPc	oEステ-	ータスの	表示		
Group01(Status	config)# and Count	show powe ers - Port	r-management t Power Stat	brief			
Port	Power	Priority	Configured	Detection	Power		
	+						
1	Yes	Low	Other	Searching	0		
2	Yes	Low	Other	Searching	0		
3	Yes	Low	Other	Delivering	3		
4	Yes	Low	Other	Searching	0		
5	Yes	High	Other	Searching	0		
6	Yes	Low	Other	Searching	0		
7 Group01(Group01(critica	Yes config)# eth-7)# p l	Low interface power ?	 Ot Searching Deliverin Disabled: Fault: PD 	g:現在、電力核 g:給電中 このポートでP デバイスに障害	。 食出を実行中 oEがオフになっ ずが発生している	っている	
high low <cr></cr>		Faul 行が ^お	Fault状態の後には、2回目の電力検出(Searching)試 行が行われる。				

すべてのポートのPoEステータスの概要を表示するには、show powermanagement brief コマンドを実行します。このコマンドの出力には、すべてのポー トのPoE検出ステータス、およびPoEが有効な各ポートのプライオリティが含まれま す。

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: PoEとVoIP電話機

ProCurve Networking

PoE設計上の考慮事項

- 1 高プライオリティのデバイスをポート番号が小さいポートに接続する
 - たとえば、APをポート1~12、IP電話機をポート13~24、PDA充電器をポート40~44
- □ PDの受電は変動する可能性がある
 - IP電話機は起動または呼び出し時に10W受電し、アイドル時に6Wに戻る
 - •4Wの差は、PSEのプールに返される
- ③ 電力バジェットの計上時に、各PDの最大受電を許容する
 - PoEスイッチへの電力を追加するには、Switch zl Power Shelfまたは620 RPS/EPSを使用
 - PSEからPDへの電力低下として16%を許容する
- ₄ 標準化前の802.3afのPDもサポート可能。 サポートはデフォルトで有効

ProCurveスイッチを使用してPoEソリューションを実装する場合は、以下の点に注意してください。

 高プライオリティのデバイスをポート番号が小さいポートに接続します。これは、 スイッチのデフォルト設定では、ポート番号が小さい順に電力が割り当てられるため です。この設定が適切でない場合は、プライオリティをカスタマイズすることも可能で す。

2. PDに供給される電力は変動する可能性があります。接続されているPDごとに、 必要とされる最大電力を見積もってください。

3. 各PDに最大電力を許可します。スイッチの電力バジェットの割り当て時に、接続 されているデバイスすべてが必要とする最大総電力を考慮する必要があります。こ のようにしない場合は、需要が高い期間にスイッチが需要過多になる可能性があり ます。

4. 標準化前の802.3afのPDもサポート可能です。サポートはデフォルトで有効になっています。



これまでの説明でPoEデバイスへの給電方法については理解できたと思います。ここでは、LLDPがVoIPを機能させる方法について説明します。

ここでは、Link Layer Discovery Protocol(LLDP)の基本的な考え方を復習し、 LLDPの拡張版であるMedia Endpoint Discovery(LLDP-MED)について説明しま す。その後、VoIPの典型的な起動プロセス、およびエッジスイッチをVoIP電話機に 対応させる場合の設定方法について簡単に説明します。

Link Layer Discovery Protocol(LLDP)は、標準に基づいて、スイッチ、ルーター、 無線アクセスポイントなどのEthernetベースのネットワークデバイスが隣接デバイス (ネイバー)に自分自身をアドバタイズして、隣接デバイスに関する情報を学習でき るようにします。これはCDPに類似しています。LLDPは、IEEE 802.1AD標準に準 拠しています。



LLDP-MEDは、LLDPの機能を拡張したものです。ここでは、その追加された機能について説明します。

その1つは、許可されたVLAN、レイヤー2プライオリティとDiffserveの設定などの LANポリシーの自動検出機能です。この機能により、VoIP電話機などのさまざまな デバイスをプラグ&プレイで簡単に接続できるようになります。

もう1つの機能は、場所を検出できるようにするロケーションデータベースの作成と、 VoIP電話機でのEnhanced 911(E911)サービス(北米のみ対応)の提供です。

また、PoEエンドポイントの電力管理が拡張され、自動化されています。

インベントリ管理は、ネットワーク管理者がネットワークデバイスを追跡して、製造業 者、ソフトウェア/ハードウェアのバージョン、シリアル番号や資産番号などのデバイ スの特性を特定できるようにする機能です。

VoIP電話機のベンダーの多くは、コスト上の制約や管理が複雑になるなどの理由 でSNMPのサポートを予定していなかったため、VoIPではLLDP-MEDをサポートす ることが非常に重要です。



LLDP-MEDは、プロトコルを使用するさまざまなコンポーネントを定義します。これ には、ネットワーク接続デバイス、一般的なエンドポイント、メディアエンドポイントな どがあります。

ネットワーク接続デバイスは、LLDP-MEDエンドポイントがネットワークにアクセスで きるようにします。たとえば、レイヤー2または3のスイッチ、無線LAN APなどです。

Generic Endpoint(Class 1)には、IP通信のコントローラーとして機能するデバイス が含まれます。LLDP-MEDに対応している場合、このようなデバイスの機能に関す る情報を提供するType Length Value(TLV)を含めます。

Media Endpoint (Class III) は、Media GatewayまたはConference Bridgeなどのメ ディアストリームをサポートします。LLDP-MEDに対応している場合、LLDP-MEDは 、このようなデバイスのネットワークポリシーに関する情報を提供するTLVを含めま す。また、Class IIIデバイスは、Class I TLVもサポートします。

Media Endpoint(Class II)は、VoIP電話機やソフトフォンなどエンドユーザーによる IP通信をサポートします。LLDP-MEDに対応している場合、LLDP-MEDは、このようなデバイスに関して、場所の特定機能(E911サービス)、および組み込み型のレイ ヤー2インベントリ管理情報を提供するTLVを含めます。Class IIデバイスは、Class II TLVもサポートします。



1. LLDP-MEDとCisco CDPv2は、VoIP電話機が、音声VLANとQoSを自動的に設 定できるようにします。

2. VoIP電話機の多くは、「ベンダー固有」のDHCPプロセスを使用する自動設定に も対応しています。このようなベンダーには、Avaya、Alcatel、Mitel、Siemens、 ShoreTelなどがあります。DHCPは、この他の目的に対応するベンダー固有の拡張 機能もサポートしています。VoIPの自動設定プロセスでは、データVLAN上の DHCPサーバーは、音声VLAN IDとQoS、および使用するIPアドレスやデフォルト ゲートウェイなど、その他の典型的な属性の割り当てをアドバタイズします。

3. 3つめの方法として、VLAN識別子とQoS設定の自動設定を手動で一回行う方 法があります。たとえば、Ciscoの場合は、Ciscoネットワークに接続する際に、 Network Configurationセットアップを使用して管理用のVLAN IDを設定します。



この図は、LLDP-MEDを使用してVLAN識別子とQoSに関する自動設定プロセスが 動作する様子を示しています。



ここでは、ProCurveスイッチとCiscoスイッチのコンフィギュレーションファイルに指定して、VoIP電話機とPCを接続したエッジ(アクセス)ポートを機能させるCLIコマンドの例を示します。

この例では、VLAN 11を使用してPCとの間でデータトラフィックを送受信し、VLAN 12を使用してVoIP電話機との間で音声トラフィックを送受信しています。ProCurve スイッチでは、データVLANのポートはタグ無ですが、音声VLANではタグ付になっています。Ciscoの場合でも同様の設定を行います。



ここでは、特定のトラフィックに対してネットワークサービスを優先させるQuality of Service (QoS)機能の使用方法を学習します。レイヤー2 IEEE 802.1pおよびレイ ヤー3 Differentiated Servicesのプライオリティ付けの方法、ポートのキューごとの 最低保証帯域幅、レート制限によるトラフィックの制御の概要について説明します。

統合アプリケーションに適切なサービスを提供するには、トラフィックのプライオリテ ィを設定するエンドツーエンドの方法をネットワークインフラが備えている必要があり ます。データ送信で許容可能な遅延のレベルによっては、VolPまたはネットワーク ベースのビデオが使用できなくなる可能性があります。



トラフィックを分類する際に、スイッチは、特定のスイッチポートに関連付けられたキューを転送する物理的なハードウェアに、8個のトラフィッククラスまたはプライオリティレベルをマッピングします。上記の例では、このスイッチは各ポートで4個のキューをサポートしており、各キューに2個のトラフィッククラスをマッピングします。

スイッチでサポートするキューの数は、変更可能です。たとえば、Switch 8200zl、 5400zl、6200yl、3500ylシリーズでは、各スイッチポートに対して、2個、4個、または 8個のハードウェアキューを設定できます。デフォルト設定は、8キューです。

トラフィッククラス0は、最低のプライオリティでなく、通常のプライオリティにマッピン グされることに注意してください。未分類のトラフィックは、デフォルトではクラス0に 割り当てられるので、通常のプライオリティのフォワーディングが設定されます。トラ フィッククラス1と2は、プライオリティが最も低いキューにマッピングされます。



マーキング手順では、スイッチは、レイヤー2および/またはレイヤー3のヘッダーに プライオリティレベルを設定します。トラフィックをマーキングして、パケットを受信す る次のスイッチがこの情報を使用できるようにします。

トラフィックのマーキングは2つの方法で行われます。レイヤー2ではIEEE 802.1p、 レイヤー3ではDifferentiated Services(DiffServ)に従って行われます。レイヤー2と レイヤー3の両方のヘッダーの対応するフィールドを設定する場合も、一方のみを設 定する場合もあります。これは、スイッチがレイヤー3マーキングを行う設定になって いるかどうか、また、トラフィックの伝送に使用するポートの性質によって決まります。 。レイヤー2では、ポートがタグ付かどうかで決まります。



パケットを受信すると、定義済みQoSポリシーにパケットがマッチするかどうかの判断が行われます。

複数のQoSポリシーが定義されている場合は、優先順位に基づいて判断します。こ の点については、このモジュールで後ほど詳しく説明します。

QoSポリシーが定義されている場合は、ポリシーに定義されている802.1pプライオリティレベルに基づいてパケットがキューに分類されます。

この例では、スイッチのポートごとに4個のハードウェアキューがあります。

QoSポリシーが定義されていない場合は、受信パケットがタグ付かどうかの判断が 行われます。パケットがタグ付の場合は、802.1Qヘッダーの802.1pプライオリティ 値を使用して、どのキューに分類するかを決定します。

受信パケットがタグ付でない場合は、検討を要する802.1pプライオリティ値がありま せん。そのため、パケットは通常のプライオリティキューに分類されます。この例で は4個のキューがあるので、通常のプライオリティのキューはキュー2になります。

HP ProCurve Campus LAN 使用方法と設定方法: PoEとVoIP電話: ProCurve ASICベースのスイッチでのQoSサポート •Switch 8200zl、5400zl、3500y、6200ylシリーズ								
分類	レイヤー 2 802.1p	レイヤー 3 DSCP	レイヤー3プ ライオリティ	VLAN ID	入力 ポート	TCP/UDP ポート	IPアドレ ス	LANプロ トコル
キューイング ポートごとのキューの数 キューイング動作の変更 8(2または4に変更可能) GMB:出力のみ レート制限:入力および出力								
マーキング レイヤー 2 802.1p レイヤー 3 DSCP レート制限により、1つ のポートで使用できる 帯域幅の上限も制御で きる(デフォルトでは無 効)。 保証最小帯域幅(GMB)の設定に 従って、ある特定のポートのアウト バウンドキューそれぞれに最小帯域 幅が適用される(デフォルトではキュ ーの数に基づく)。								

この図は、Switch 8200zl、5400zl、6200yl、3500yl シリーズで使用できるQoS機能の概要(対応する分類基準、キューの設定機能、対応するマーキング基準)を示しています。



VoIPなど、遅延の影響を受けやすい多くのアプリケーションでは、比較的低速の WANリンク上でトラフィックをルーティングする際に適用するプライオリティ設定が必 要となります。ただし、フレームタイプがEthernetから、PPPなどのWANプロトコル のいずれかに変わる際には、802.1Qタグ(および中に含まれる802.1pプライオリテ ィ値)は保持されません。

この問題を解決するには、スイッチがDiffServeをサポートするように設定して、受信 トラフィックの802.1pプライオリティ値を送信パケットのIPヘッダーのDSCP値にマッ ピングできるようにする必要があります。これで、WANルーターには、エッジスイッチ とコアスイッチで設定されたプライオリティを適用する際に必要な情報が提供されま す。



Switch 8200zl、5400zl、3500yl、6200ylシリーズおよびその他のスイッチファミリは、7つの基準に基づいてトラフィックを分類します。

複数のプライオリティポリシーが定義されている場合は、プライオリティが高い方から低い方へと基準が評価されます。

スイッチに複数のプライオリティ基準が設定されている場合は、スイッチは図のよう に、プライオリティが高い方から低い方へと基準を評価します。

ProCurve Networking			使用	HP 方法と記	ProC 没定方:	urve Car 法: PoEと	npus LANs VoIP電話機
DiffServ Code	Pointマッt	ピングテ	ーフ	゛ルの	D表	示	
Switch# show qos dscp-map		Γ	DSCPポリ	シー			
DSCP -> 802.p priority m DSCP policy 802.1p tag 000000 No-override 000001 No-override	Policy name	カテゴリー	転送 クラス	ドロッ プ 優先 度	10進	802.1pプ ライオリテ イ	マッピング キュー*
 001010 1 001011 No-override 001100 1	デフォルトでは、 13個のDSCPに 802.1pプライオ	AF Class 1	001 001 001	010 100 110	10 12 14	1 1 2	1 1 2
001101 No-override 001110 2 001111 No-override 010000 No-override	リティレベルが割り 当てられている	AF Class 2	010 010 010	010 100 110	18 20 22	0 0 3	3 3 4
010001 No-override 010010 0 .010011 No-override 010100 0	"No-	AF Class 3	011 011 011	010 100 110	26 28 30	4 4 5	5 5 6
010101 No-override 010110 3 010111 No-override 011000 No-override	override"は、 802.1pプライオ リティレベルが割り 当てられていない	AF Class 4	100 100 100	010 100 110	34 36 38	6 6 7	7 7 8
011001 No-override	ことを示す	EF	101	110	46 8個の1	7	8 があみ場

802.1pプライオリティ値に基づいてQoSポリシーを定義することに加え、DiffServ Code Point(DSCP)値に基づいてQoSポリシーを設定することができます。

show qos dscp-mapコマンドを実行すると、DSCPマッピングテーブルを表示できま す。ここには、64個のDSCPそれぞれに対応する802.1pプライオリティ値が表示さ れます。デフォルト設定では、DSCPマッピングテーブルには、IETFの定義に従って 割り当てられた 802.1pプライオリティ値を持つ13個のコードポイントがあります。51 個の他のコードポイントには、"No-override"が設定されます。これは、単にそのコー ドポイントに802.1pプライオリティ値が設定されていないことを意味します。コードポ イントは、6個の2進数で表示されます。



定義済みの802.1pプライオリティ値が割り当てられているコードポイントを変更したり、現在"No-override"に設定されているコードポイントに対して802.1pプライオリティ値を割り当てることができます。

これ以外の例については、このコースの英語版Webトレーニングに含まれる「 student guide」のモジュール7を参照してください。
☑ ProCurve Networking 20S設定の比	賋	HP Procurve Campus LA 使用方法と設定方法: PoEとVoIP電話
	ProCurve	Cisco
分類	主に <mark>グローバルに</mark> 設定 される	ポートごとに設定され る
マーキング	主に <mark>グローバルに</mark> 設定 される	ポートごとに設定され る
キューの分類	ポートごとに設定される	ポートごとに設定され る
QoSのデフォルト	<mark>有効、802.1pの設定に</mark> 基づいて動作	無効

このテーブルは、ProCurveスイッチとCiscoスイッチでの基本的なQoS設定機能の 概要を示しています。ProCurveスイッチの場合は、分類基準はグローバル、ポート レベル、VLANレベルで設定できます。Ciscoスイッチの場合は、ポートレベルで設 定します。

ProCurveスイッチでは、トラフィックのマーキングは主にグローバルに行われます。 たとえば、DiffServを使用するには、グローバルレベルで有効にします。また、 DiffServ Code Point値を802.1pプライオリティ値にマッピングする方法を指定する DSCPマッピングテーブルもグローバルレベルで設定します。DiffServ Code Point または802.1pプライオリティ値は、ポートまたはVLANレベルで設定できます。

ProCurveスイッチとCiscoスイッチでは、キューの分類はポートごとに設定します。 つまり、プライオリティレベルまたは、各キューに割り当てられているレベルを指定し ます。

デフォルトでは、ProCurveスイッチは受信パケットの802.1Qタグヘッダーにある 802.1pプライオリティ値を読み取って、それを送信パケットに含めます。802.1Qヘッ ダーは、ポートが1つ以上のVLANのタグ付メンバーになっている場合に付加されま す。



じ ProCurve Networking 確認テスト1

IEEE 802.3af互換のPDに対応するProCurveスイッチは、IEEE 802.3af標準化前のPDをサポートできない。

A. 正解

B. 不正解

Marking 確認テスト1の解答

正解: B

Matworking 確認テスト2

802.3af標準化前のCiscoのVoIP電話機は、PSEへの接続にクロスケーブルが必要。

A. 不正解

B. 正解



正解: B

使用方法と設定方法: PoEとVoIP電話機



ProCurveの802.3af標準化前の PDへの対応状況について正しく 述べているものはどれですか。(当てはまるものをすべて選択)

- A. グローバルコンテキストで有効
- B. デフォルトで有効
- C. VLANで有効
- D. インターフェイスで有効
- E. 不可能
- F. クロスケーブルを使用する必要がある



正解: A



LLDP-MEDとCisco CDPv2は、VoIP電話機が、使用する音声 VLANとQoSを自動的に設定できるようにする。

A. 正解

B. 不正解



正解: A

HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: PoEとVoIP電話機 ProCurve Networking 確認テスト5 右側の項目を、該当するProCurve QoSの説明に対応させてくだ さい。 ProCurve 対応させる項目: 主にグローバルに設定 •マーキング される •QoSのデフォルト 主にグローバルに設定 •キューの分類 される •分類 ポートごとに設定される 有効、802.1pの設定に 基づいて動作

Matworking 使用方法と設定 確認テスト5の解答			Procurv 定方法: F
	解答	ProCurve	
	分類	主にグローバルに設定 される	
	マーキング	主にグローバルに設定 される	
	キューの分類	ポートごとに設定される	
	QoSのデフォルト	有効、802.1pの設定に 基づいて動作	

モジュール5-5: 使用方法と設定方法

「PoEとVoIP電話機」終了



使用方法と設定方法: PoEとVoIP電話機

Module5-5-35



ここでは、ProCurve DHCPのスヌーピング機能とインテリジェントミラーリング機能について説明します。

DHCPスヌーピングは、Cisco製品での実装に非常に類似しています。Cisco製品の エキスパートであれば、この基本的な機能について理解していることを前提としてい ます。ここでは、その設定の一部についてのみ説明します。

インテリジェントミラーリングは、CiscoのSPANおよびRSPANに類似しています。ここでは、HP ProCurveでの実装の詳細について説明します。

MoCurve Networking DHCPスヌーピ	HP ProCurve Campus LAN 使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング ングの有効化
まずDHCPスヌーピング	「をグローバルで有効にし、さらに各VLANを保護
GroupOl(config)# dhop authorized-server database option trust verify vlan <cr></cr>	Configure valid DHCP Servers. Configure lease database transfer options. Configure DHCP snooping operational behavior. Configure trusted interfaces. Enable/Disable DHCP packet validation. Enable/Disable snooping on a VLAN.
Group01(config)# dhcp Group01(config)# dhcp Group01(config)# dhcp	p-snooping o-snooping vlan 11 p-snooping vlan 12 vLANに適用してアクティブ にする
VLAN 11	*************************************

DHCPスヌーピングを実装するには、まず最初にスイッチでDHCPスヌーピングをグ ローバルに有効にします。これにはdhcp-snoopingコマンドを使用します。このコマ ンドによりDHCPスヌーピングが有効になります(または、コマンドに"no"を付けて実 行すると無効になります)。

次の手順として、特定のVLANに対してDHCPスヌーピング機能を有効にします。こ れには、dhcp-snooping vlanコマンドに、DHCPスヌーピング機能で保護するVLAN を指定して実行します。VLAN IDの範囲を指定する場合は、ハイフンを使用します。 カンマで列挙して指定することはできません。



信頼されているポートを定義するには、dhcp-snooping trustコマンドに、該当するポ ートを指定して実行します。たとえば、アップリンクポート、および信頼されているポ ートとしてDHCPサーバーに直接接続しているポートを指定します。信頼されている ポートを定義すると、スイッチはそのポートのすべてのDHCPパケットをフィルタリン グしません。

信頼されているポートを追加するほか、ネットワーク上に認可DHCPサーバーも定 義できます。

(か) ^{ProCurve} Networking オプション82の	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング 設定	
オプション82を設定するときに、リレーするDHCP要求の「remote ID」フィールド に挿入する値を指定する 同じDHCPサーバーを使用する複数のVLANがスイッチにある場合は、通常 subnet-ipオプションを選択 「デフォルト [no] dhcp-snooping option 82 remote-id [mac subnet-ip mgmt-ip] 		
Group01(config)# dhcp-snooping option 82 remote-id subnet-ip		
オプション82が設定されている、信頼されていないエンドポイントからのDHCP要求 をスイッチが処理する方法を指定する [no] dhcp-snooping option 82 untrusted-policy [drop keep replace]		
Group01(config)# dhcp-snooping option 82 untrusted-policy replace		
	この設定タスクはオプション	

VLANでDHCPスヌーピングを有効にすると、クライアントとDHCPが同じVLANにあるか別のVLANにあるかに関係なく、スイッチは常にオプション82をDHCP要求に挿入します。

オプション82を設定する際には、DHCPヘッダーに挿入する、スイッチのremote-id の値を指定します。クライアントから受信したパケットにオプション82フィールドがな い場合は、スイッチは、ユーザー指定の値を挿入します。クライアントがすでにオプ ション82の値を挿入している場合は、スイッチは、この値をユーザー指定の値に置 き換えます。

えて例	「の周の訳中、
<pre> vlan 11 name "VLAN11" untagged A9-A12 ip helper-address 10.1.11.10 ip address 10.1.11.1 255.255.255.0 exit vlan 12 name "VLAN12" untagged A13-A16 ip helper-address 10.1.11.10 ip address 10.1.12.1 255.255.255.0 evit</pre>	 この例の設定: ●DHCPスヌーピングが有効 ●2つのVLANに適用 ●信頼されているポート ●認可サーバー ●TFTPサーバーに保存されている バインディングデータベース ●受信したオプション82の値を置き 換え ●IPヘルパーアドレスが設定されて
•••	
dhcp-snooping	• •
dhcp-snooping authorized-server 10.1.11.	.10
dhcp-snooping database file "tftp://10.1	1.11.10/core-bind.db"
dhcp-snooping option 82 untrusted-policy	y replace remote-id subnet-ip
dncp-snooping vian 11 12	

このスライドは、DHCPスヌーピングが有効になり、設定されているスイッチのコンフィギュレーションファイルの一部を示しています。

スイッチは、VLANの定義に基づいて、VLAN11およびVLAN12からIPアドレス 10.1.11.10のDHCPサーバーにDHCP要求をリレーします。このサーバーはVLAN 11にあり、信頼されているポートに接続しています。

スイッチは、VLAN 11とVLAN 12でDHCPトラフィックを「スヌーピング」し、攻撃の兆 候がないかどうかをチェックします。このチェックの一環として、スイッチは、信頼され ていないエンドポイントから送信されたDHCP要求中のオプション82フィールドを探 します。オプション82があった場合は、スイッチは、このフィールドの情報を、DHCP 要求を受信したVLANに関連付けられている自身のIPアドレスに置き換えます。



ここでは、トラフィックのローカルミラーリングとリモートミラーリングを行うProCurve のインテリジェントミラーリング機能について説明します。ローカルミラーリングでは、 物理ポート、論理ポート、またはVLANからのトラフィックを収集して、そのトラフィック を同じスイッチ上の出カポートにコピーします。リモートミラーリングでは、同じタイプ の送信元からのトラフィックを収集して、リモートスイッチの出カポートに送信します 。送信元から宛先(出力)ポートに送信されたトラフィックは、さまざまな基準でフィル タリングできます。

従来型のトラフィックミラーリング(ポートミラーリングとも呼ばれる)は、トラフィックを モニタリングして、脅威の検出、問題のトラブルシューティング、ネットワーク管理を 行う場合に主に使用されています。たとえば、PC上でネットワークプロトコルアナラ イザーを使用して、ミラーリングしたデータストリームを検証し、障害の発生している ネットワークのトラブルシューティングを行う場合などです。

使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング



インテリジェントミラーリング機能は、トラフィックをモニタリングして、脅威の検出、問題のトラブルシューティング、ネットワーク管理を行うことを可能にします。たとえば、 リモートサイトにあるPC上でネットワークプロトコルアナライザーを使用して、ミラーリ ングしたデータストリームを検証し、障害の発生しているネットワークのトラブルシュ ーティングを行うことができます。



各スイッチは、最大4個のミラーセッションの送信元になることができます。ミラーセッションは、データストリームを管理する送信元/宛先スイッチに従って定義されます。



インテリジェントミラーリングの主な利点の1つは、送信元で収集したモニタリング対象のトラフィックを「フィルタリング」できることです。対象とするトラフィックを特定する2つのオプションがあります。



モニタリング対象のトラフィックを送信方向に基づいてフィルタリングする代わりに、 標準ACLまたは拡張ACLを使用できます。ACLを使用すると、モニタリングするトラ フィックを非常に詳細なレベルで指定することができます。標準ACLまたは拡張ACL は、ポートのユーザーアクセスを制御する場合と同様の方法で作成します。唯一の 違いは、この場合、ACLはユーザーの権限を制御するのではなく、ミラーリング対象 とするユーザートラフィックのサブセットを指定する点です。たとえば、拡張ACLでは 、送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、送信元ポート番号、宛先ポート番号、プロトコ ルなどの基準を指定します。



トラフィックのミラーリングを設定する際には、主に2つの手順を実行します。最初の 手順では、ローカルまたはリモートにあるモニタリング対象トラフィックの送信先とな る宛先スイッチを設定します。別のスイッチがフォワーディングしたミラーリング対象 トラフィックを処理できるように宛先スイッチを設定していない場合は、パフォーマン スが低下する可能性があります。これは、宛先スイッチに接続しているデバイス(稼 動中のIDS/IPSまたはネットワークプロトコルアナライザー)宛のパケットを宛先スイ ッチが認識できないためです。

2番目の手順では、送信元スイッチを設定します。トラフィックをローカルミラーリング する場合、これは同じスイッチになります。この手順では、ミラーセッション番号およ びミラーセッションの宛先を定義します。トラフィックのローカルミラーリングでは、宛 先は同じスイッチ上のポートになります。リモートトラフィックミラーリングの場合は、 宛先は別のスイッチになります。

HP ProCurve Campus LANs ProCurve 使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング Networking		
トラフィックのローカルミラーリング:ミラーセッションと		
出力ポート		
手順1: ミラーセッションと出力ポートを指定		
<pre>mirror <1-4> [name <name>] port <port-id></port-id></name></pre>		
オプション		
<1-4> 1~4の値を使用してミラーセッションを指定		
<name> セッションを特定しやすくするための名前</name>		
<port-id> ローカルスイッチの出力ポート</port-id>		
Switch_A(config)# mirror 1 port a8		
1 3 5 7 9 11 モジュールA		
2 4 6 8 10 12 ポートA8は出力ポートで、セッション1が		
収集するトラフィックの宛先になっている		

トラフィックのローカルミラーリングを設定する場合は、まず、グローバルコンフィギュ レーションレベルでmirrorコマンドを使用して出力ポートを設定します。コマンドに "no"を付けて実行すると、ミラーセッションおよびそのセッションに以前に割り当てた ミラー対象の送信元が削除されます。

この手順は、送信元インターフェイスを定義する前に実行する必要があります。最初に送信元インターフェイスを設定しようとすると、指定したセッション番号に対して 宛先を指定しないとコマンドが適用されないことを示すメッセージがCLIに表示されます。

ProCurve Networking	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング	
トラフィックのロー	カルミラーリング: トラフィックの送信元と	
フィルタリング 手順2: 送信元の「インターフェイス」(「ポート」またはVLAN)、およびフィルタリングのタイ		
プ(トラフィックの方向またはACL)を指定		
[interface <port-id mesh="" trunk-id="" =""> vlan <vid>] monitor all <in both="" out="" =""> mirror <1-4> [<1-4>]</in></vid></port-id>		
- s tck - [interface <port-id mesh="" trunk-id="" =""> vlan <vid>] monitor</vid></port-id>		
オプションの説明		
interface <port-id mesh="" trunk="" =""></port-id>	ポートID、トランク名、HPメッシュを送信元として指定する場合に使用	
vlan < <i>vid</i> >	VLANを送信元として指定する場合に使用	
all [in out both]	方向に基づいてトラフィックをフィルタリングする場合に使用: in = スイッチが受信するトラフィック out = スイッチから送信されるトラフィック both = すべてのトラフィック	
ip access-group < <i>acl-id</i> > 標準ACLまたは拡張ACLでトラフィックをフィルタリングする場合に使用		
<1-4>	以前に定義したミラーセッション	

トラフィックのローカルミラーリングを設定する2番目の手順では、monitorコマンドを 使用して、トラフィックの送信元およびミラーリング対象のトラフィックを指定します。 monitorコマンドにはいくつかの形式があります。

まず、トラフィックの送信元を物理/論理インターフェイス(ポート、トランク、メッシュポート)、またはVLANとして指定します。

前者を指定する場合は、interfaceコマンドプレフィックスを使用します。後者を指定 する場合は、VLANコマンドプレフィックスを使用します。

次に、モニタリング対象とするトラフィックを指定する方法を選択します。

これは、スイッチからみたトラフィックの送信方向、または標準/拡張ACLを使用して 指定します。ACLを使用する場合は、ACLの基準にマッチする受信トラフィックのサ ブセットのみがミラーリングされます。



この図は、ローカルミラーリング用にトラフィックの送信元とフィルタリングを設定する 場合の2つの例を示しています。

最初の例では、1つの物理ポートがモニタリング対象とする送信元になっており、トラ フィックの方向に従ってトラフィックがフィルタリングされます。この例では、入力およ び出カトラフィックの両方を収集してミラーリングするように指定しています。実際に は、ポートA1で送受信するすべてのトラフィックがミラーリングされます。

2番目の例では、1つのVLANがモニタリング対象とする送信元になっており、拡張 ACLを使用してトラフィックがフィルタリングされます。ACLを指定しているので、ACL を構成するアクセス制御リストに従って入力トラフィックのみがミラーリングされます 。



show monitorコマンドを使用すると、スイッチのトラフィックミラーリングに関する設 定を表示できます。



トラフィックのリモートミラーリングの設定は、ローカルトラフィックのミラーリングより も手順が多く複雑です。トラフィックのリモートミラーリングは、Cisco SPANに類似し ています。

トラフィックのリモートミラーリングの設定手順は以下のようになります。

必要に応じてジャンボフレームを有効にする

ローカルミラーセッションを設定する

ミラーリング対象とする送信元を設定する

モニタリング対象とする送信元を設定する



使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング

Module5-6-17

Matworking 確認テスト1

ProCurveスイッチのIPヘルパーアドレスはどこで割り当てますか。

A. インターフェイスコンテキスト内 B. ポートコンテキスト内 C. VLANコンテキスト内 D. グローバルコンテキスト内

Mar ProCurve Networking 確認テスト1の解答

正解: C

使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング



確認テスト2

HP ProCurveのインテリジェントミラーリングについて適切に説明 しているのはどれですか。(当てはまるものをすべて選択)

- A.トラフィックをローカルにミラーリングおよび/または複数の リモートスイッチに送信する
- B. 複数のモニタリングセッションを送信元スイッチで開始可能
- C.送信元トラフィックは、ミラーリング先に送信する前にフィル タリング可能
- D.ポートまたはVLANに基づく入力および/または出力モニタ リングを行う
- E.ACLを使用して入力モニタリングを行う

Mar ProCurve Networking 確認テスト2の解答

正解: A、B、C、D、E

使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング



以下の手順を、トラフィックのリモートミラーリングを設定する場合の適切な順番に並べ替えてください。

・宛先スイッチでミラーセッションを設定
・送信元スイッチでモニタリング対象を設定
・ジャンボ フレームを有効にする
・送信元スイッチでミラーセッションを設定

じ ProCurve Networking 確認テスト3の解答

1. ジャンボ フレームを有効にする

2. 宛先スイッチでミラーセッションを設定

3. 送信元スイッチでミラーセッションを設定

4. 送信元スイッチでモニタリング対象を設定
モジュール5-6: 使用方法と設定方法

「DHCPとインテリジェントミラーリング」終了



使用方法と設定方法: DHCPとインテリジェントミラーリング



ここでは、OSPFを使用したルーティングについて説明します。Cisco製品のエキス パートであれば、このプロトコルに習熟しているはずですが、ProCurveとCiscoでは 動作にいくつかの違いがあるので、設定例と共に説明します。

の『ProCurve Networking IPルーティング	の有効	_{使用方法と}	HP ProCu 設定方法: OSPFを(rve Campus LANs 吏用したルーティング
デフォルトでは、Pro(なっている	Curveスイ	イッチでは、IF	ルーティング	が無効に
有効にする方法: Switch(config)# ip ro ルーティングが有効にな	outing	どうかを確認す	る方法:	
Switch(config)# show ip Internet (IP) Service IP Routing :Enabled				
Default TTL : 64 Arp Age : 20 Domain Suffix : DNS server :				
VLAN	IP Config	IP Address	Subnet Mask	Proxy ARP
DEFAULT_VLAN	Manual	10.1.1.1	255.255.255.0	No No

スイッチでは、IPルーティングを必ず有効にする必要があります。スイッチに直接接続しているルートと1つ以上のスタティックルートを使用する簡単なルーティングを行う場合でも、ネットワークのディストリビューションレイヤーまたはコアレイヤーで複雑なルーティングを行う場合でもこの設定が必要です。

ProCurveスイッチとCiscoスイッチでは、CLIのグローバルコンフィギュレーションレベルで ip routingコマンドを実行すると、IPルーティングを簡単に有効にできます。 ProCurveスイッチでは、show ipコマンドを使用してIPルーティングが有効になっているかどうかを確認できます。

ゆ ^{ProCurve} Networking サブネット間の	HP ProCu 設定方法: OSPFを付 _	rve Campus LANs 吏用したルーティング			
VLANに設定するIPアドレ Switch(config)# vlan 1	スの例: 1 ip addres	s 10.1	.11.1/24		
Switch(config)# show ru vlan 11 name "VLAN11" untagged A1-A6 tagged A24,B24 ip address 10.1.11.1 exit vlan 12 name "VLAN12" untagged B1-B6 tagged A24,B24 ip address 10.1.12.1 exit	n 255.255.255 255.255.255	5.0		さらに、タグ無 グ付にするポー 当て	およびタ ートを割り
Switch(config)# show ip VLAN	IP Config +	IP Ado	dress	Subnet Mask	Proxy ARP
DEFAULT_VLAN VLAN11 VLAN12	Manual Manual Manual	10.1. 10.1. 10.1.	1.1 11.1 12.1	255.255.255.0 255.255.255.0 255.255.255.0	No No No No No No

スイッチが複数のVLAN間でルーティング(フォワーディング)を行う基本的なルーティングでは、各VLANにIPアドレスを割り当てる必要があります。この簡単な例では、 2つのVLANをProCurveスイッチに追加しています。また、エンドユーザーデバイス に対応するエッジポートはタグ無になっています。コアにある他のスイッチに接続す るアップリンクポートは、この新しい2つのVLANでタグ付けされています。

ループバックインターフェイスの使用

ProCurve Networking

最大8個のループバックインターフェイスを設定可能

Switch(config)# interface loopback 1 ip address 10.1.100.1 Switch(config)# interface loopback 7 ip address 10.1.100.17

ProCurveとCiscoでは、OSPFルーターIDとして使用するループ バックの選択方法が異なる

3500yl、5400zl、6200ylシリーズのスイッチでは、最大8個のループバックインターフェイスを設定できます。

ループバックは、OSPFを使用しているときにルーターIDを選択する場合などに使用 します。ルーターIDを設定していない場合は、ProCurveスイッチは、IPアドレスを持 つ設定済みVLANから1つのアドレスを選択して割り当てるか、またはIPアドレスが 設定されているループバックインターフェイスから選択します。ProCurveデバイスに よって詳細が異なりますが、ProCurveスイッチの最新モデルのほとんど(特に 3500yl、5400zl、6200ylシリーズ)では、ProCurveのルーターIDの選択プロセスで 、設定済みループバックインターフェイスの最も小さいIPアドレスが選択されます。こ れは、設定済みの最も大きいアドレスを選択するCiscoデバイスとは逆になります。 DRとBDRの選択に関するOSPFプロセスは標準に従っていますが、ルーターIDの インターフェイス番号の選択方法は、ProCurveとCiscoでは異なります。これは OSPF標準でこのような柔軟性を許容しているためです。

Metworking ルーティング	ブテーブノ	レの表	_{使用方法と} え 示	:設定方氵	HP ProCurve 去: OSPFを使用	Campus LANs したルーティング
設定されているVLA	Nとループバッ	ックインタ	ーフェイス	を示す	「ルーティング	テーブル
Switch(config)# sho	ow ip route					
IP Route Entries			_	~ 1 -		
Destination	Gateway	VLAN	Туре	Sub-Ty	pe Metric	Dist.
10.1.100.1/32	lol		connected		1	0
10.1.100.17/32	107		connected		1	0
10.1.11.0/24	VLAN11	11	connected		1	0
10.1.12.0/24	VLAN12	12	connected		1	0
127.0.0.0/8	reject		static		0	0
127.0.0.1/32	100		connected		1	0
デフォルトルー ク(lo0)インター イス	プバッ ーフェ		直接接線 みのIP7 生成され	売してい アドレス(いた	るルートが、設定) こ基づいて自動的	斉 川こ

show IP route コマンドは、IPルーティングテーブルで現在アクティブになっているす べてのエントリーを表示します。この例では、VLANとループバックインターフェイス から生成された直接接続ルートの一覧が表示されています。

	の ProCurve Networking スタティック	ルートの	設定	使用方法	H と設定方法:	P ProCurve OSPFを使用I	Campus LANs したールーティング
	ip route <dest-< th=""><th>ip-address>/<ma< th=""><th>sk-bits> — また</th><th><gateway は一</gateway </th><th>-<i>ip</i>> [dista</th><th>ance <1-255</th><th>>]</th></ma<></th></dest-<>	ip-address>/ <ma< th=""><th>sk-bits> — また</th><th><gateway は一</gateway </th><th>-<i>ip</i>> [dista</th><th>ance <1-255</th><th>>]</th></ma<>	sk-bits> — また	<gateway は一</gateway 	- <i>ip</i> > [dista	ance <1-255	>]
	ip route <dest-< td=""><td>ip-address> <deo< td=""><td>cimal-mag</td><td>sk> <gate< td=""><td><i>way-ip</i>> [d:</td><td>stance <1-</td><td>255>]</td></gate<></td></deo<></td></dest-<>	ip-address> <deo< td=""><td>cimal-mag</td><td>sk> <gate< td=""><td><i>way-ip</i>> [d:</td><td>stance <1-</td><td>255>]</td></gate<></td></deo<>	cimal-mag	sk> <gate< td=""><td><i>way-ip</i>> [d:</td><td>stance <1-</td><td>255>]</td></gate<>	<i>way-ip</i> > [d:	stance <1-	255>]
例	ネット サブネット。 : ホン	ワーク、 ・ ネ 、または スト固有	クストホッ またし インタ	プルーター_ オローカル !ーフェイス	管理う デ	ディスタンス、 フォルト = 1	
	Switch(config) #	ip route 10.2	.11.0/24	10.1.1.	<mark>2</mark> ネッ	トワークルート	
	Switch(config) #	ip route 0.0.0	0.0 0.0.	0.0 10.1	.1.3	デフォルトルー	-ト
Sw IF	vitch(config)# sh P Route Entries	now ip route					
	Destination	Gateway	VLAN	Туре	Sub-Type	Metric	Dist.
	10.2.11.0/24	10.1.1.3 10.1.1.2	1	static static		1	1

ProCurveスイッチにスタティックルートを作成するには、ここに示すip routeコマンド を使用します。ここでは2種類のコマンドを示しています。宛先IPアドレスのマスクは 、マスクするビット数(CIDR表記)、またはドット区切りの10進数で指定します。



ProCurveにOSPFを設定する場合の主な手順は4つあります。

1, OSPFをグローバルに有効にする—グローバルコンフィギュレーションレベルから router ospfコマンドを使用して設定します。

2, インターフェイスでOSPFを有効にする—router ospfコマンドを実行してOSPFを グローバルに有効にすると、グローバルOSPFコンテキストに入ります。そのコンテ キストから、areaコマンドを使用して、自律システム内でルーティングスイッチを1つ 以上のOSPFエリアに割り当てます。

ルーティングスイッチは、1つのエリアまたは複数のエリアに所属できます。割り当て た特定のエリアに参加するには、1つ以上のVLANまたはサブネットを設定して、そ れぞれを該当するエリアに割り当てる必要があります。

3. リンクコストを割り当てる—コストを使用して、インターフェイス経由でパケットを送 信する場合に必要なオーバーヘッドを指定します。

4. OSPFステータスを確認する—showコマンドにはさまざまなオプションがあり、 OSPFの設定や現在の状態を調査できます。



上記のCLI出力は、スイッチのコンフィギュレーションファイルの一部を示しています。 のSPFに関連する一般的なエントリー部分を強調しています。

router ospfコマンドを実行すると、OSPFがグローバルに有効になります。上記のサ ブエントリー"area backbone"は、(OSPFコンテキストで)area backboneコマンドを 実行してスイッチをOSPFバックボーンに割り当てたことを示しています。ProCurve では、「プロセスID」を使用しないので注意してください。

各VLANコンテキスト内で、area <ospf-area-id > コマンドを実行すると、自律システ ム内で、対応するインターフェイスにOSPFを割り当てて、ルーティングスイッチを1 つ以上のOSPFエリアに割り当てることができます。エリアIDは、そのエリアに所属 するVLANのIPアドレスにマッチさせる値(この例の場合)、または特定のAS内のエ リアで使用する番号付けシステムに従った値になります。エリアIDは、整数 またはド ット区切りの10進数の形式で指定します。たとえば、エリアIDとして256を入力した 場合は、スイッチの設定では 0.0.1.0になり、エリアIDとして0または0.0.0.0 を入力 した場合は、そのルーティングスイッチをバックボーンエリアに自動的に参加させま す。

More ProCurve Networking OSPFステータスの確認

OSPFが有効になっている場所の確認

S	Switch(config)# show ip ospf interface									
0	OSPF Interface Status									
	IP Address	Status	Area ID	State	Auth-type	Cost	Pri	Passive		
	10.1.11.1	enabled	backbone	DR	none	1	1	yes		
	10.1.64.1	enabled	backbone	DR	none	1	1	no		
	10.1.100.1	enabled	backbone	LOOP	none	1	1	no		

隣接関係の確認 Switch(config)# show i

Switchi(Conrig)# 5	110 %	tp ospr nergibor					
OSPF Neighbor In	forma	ation					
Router ID	Pri	IP Address	NbIfState	State	Rxmt Qlen	Events	Helper Status
10.1.100.2	1	10.1.64.2	DR	FULL	0	5	
	"FUL 題が						

このスライドは、show ip ospf コマンドにオプションやサブオプションを指定する場合の例を2つ示しています。

ProCurve Networking			使用方法と	HP :設定方法: C	ProCur SPFを使	ve Campus LAN 用したルーティン
OSPFエント	リーのある	るルー	ーティン	· グテ-	-ブル	
Switch(config)# sho	w ip route					
IP Route Entries						
Destination	Gateway	VLAN	Туре	Sub-Type	Metric	Dist.
10.1.100.1/32	 lol		connected		 1	0
10.1.100.17/32	lo7		connected		1	0
10.1.11.0/24	VLAN11	11	connected		1	0
10.1.12.0/24	VLAN12	12	connected		1	0
127.0.0.0/8	reject		static		0	0
127.0.0.1/32	100		connected		1	0
10.1.21.0/24	10.1.64.2	64	ospf	IntraArea	2	110
10.1.22.0/24	10.1.64.2	64	ospf	IntraArea	2	110
10.1.100.2/32	10.1.64.2	64	ospf	IntraArea	2	110
vlan 1 10.1.1.1/24 vlan 11 10.1.11.1/24]		lo0 10	0.1.100.2	vlan 1 vlan 21 vlan 22	10.1.1.2/24 10.1.21.1/24 10.1.22.1/24
vlan 12 10.1.12.1/24	lo0 10.1.100.1	vlan 64	4	-		
10.1.64.1/24			10.1.6	64.2/24		

この図のshow ip routeコマンドの出力は、OSPFが設定され、最低1つの隣接 OSPFルーターと通信を確立しているスイッチのルーティングテーブルにあるOSPF エントリーの例を示しています。



ここには、ProCurveスイッチとCiscoスイッチにOSPFを設定して相互運用する場合のシンプルなネットワークを示しています。

	HP ProCurve Campus LANs 使用方法と設定方法: OSPFを使用したルーティング
USPF設定の比較	
ProCurve	Cisco
router ospf 2	router ospf 1 1
area backbone	passive-inceriace vianzi
in address 10 1 100 1	network 10.1.21.2 0.0.0 0 area 0
ip address $10.1.100.1$ area backbone	network 10.1.21.2 0.0.0.0 area 0
rlan 1	interface loophack1
in address 10 1 1 1 255 255 255 0	in address 10 1 100 2 255 255 255 255
in $ospf 10 1 1 1$ area backhone	ip ospf cost 10
ip ospf cost 10	interface vlan1
vlan 11	ip address 10.1.1.2 255.255.255.0
2 ip address 10.1.11.1 255.255.255.0	ip ospf cost 10
ip ospf 10.1.11.1 passive	interface vlan21
ip ospf 10.1.11.1 area backbone	ip address 10.2.21.2 255.255.255.0
ip ospf cost 10	ip ospf cost 10

1. ProCurveでは、グローバルコンフィギュレーションレベルで実行する"router"コマンドでインスタンス番号を指定しません(上記の1を参照)。

ProCurveでは、router ofpf Ciscoでは、router ospf 1

2. ProCurveでは、"VLAN" インターフェイス内でネットワークを設定しますが、Ciscoでは、グローバルコンフィギュレーションレベルでnetworkコマンドを使用して設定します(上記の2を参照)。

OSPFの設定方法の詳細については、以下のマニュアルを参照

ProCurve Networking

詳細情報

http://cdn.procurve.com/training/Manuals/3500-5400-6200-8200-MRG-Jan08-5-IP-Routing.pdf

その他の設定例については、上記のリンクが示すファイルを参照してください。



I ProCurve Networking 確認テスト1

ProCurveスイッチで、ルーティングテーブルの情報に基づいてIP パケットをフォワーディングする機能を有効にする場合、以下の どのコマンドを使用しますか。

A.Switch(config)# ip routing B.Switch(config-if)# ip routing C.Switch(config-vlan)# ip routing

Marking 確認テスト1の解答

正解: A

Marworking 確認テスト2

OSPFに含める「ネットワーク」または「VLAN」はどのように設定しますか。

A.OSPFルーティング用のグローバルコンテキストで"network command"を指定

B.VLANコンテキストで "ip ospf address area" を指定

C.router ospf process-idコンテキストでip ospf address area コマンドを実行

 ProCurve Networking 確認テスト2の解答

正解: B

Matworking 確認テスト3

ProCurveでは、複数のループバックインターフェイスが設定されている場合、その最も小さいIPアドレスをルーターIDとして選択します。

A. 正解

B. 不正解

Marking 確認テスト3の解答

正解: A

モジュール5-7: 使用方法と設定方法

「OSPFを使用したルーティング」終了

